

# DANH

No. 8



【表紙写真説明】

関東大会県予選第二戦 対翠嵐

撮影 富野輝一郎

DANH

- №. 8 -

榮光學園 跳球部

タラビア	1.2
高一に思う事	3
中学生に一言	8
中三諸君に与う	9
県地区別リース戦	12
スロック王座決定戦	14
中学県大会	16

合宿日誌	18
関東大会	25
県予選、日記、経過、作文	
作文	36
佐久間巖、中前峻、矢島守治、久保田寿一、高田直規	
中川謙、佐藤政、伊藤和男、怪人	
アジアユースサッカー派遣	
選抜合宿	52

部外の人の話	57
山岳部、野球部、ギャロイデ、ブルカ	
丹沢紀行	67
諸磯遊び歩記	72
太田庵にて	75
喫煙室	17、24、35、56、63
編集後記	77

関東大会予選準決勝 対湘南  
市村決勝点を挙ぐ



撮影 唯野英輝

関東大会入場式にて



# 高一譜君の事

十期主将 市村俊一

君達が中学生の頃 中三指導田誌の最後の一頁に哲チャマンが書いたものだ。僕は主将になつて間もなくこれを受けとつた。

今年は新人戦、国体予選にこそ敗れだが、関東大会出場の宿願をはたし、あれだけの成績をあげる事ができた。主将として僕は人一倍苦んでいる。特に感謝したいのは、東郷先生、スラングさん、石原さんはもちろん、高一譜君のめざましい活躍である。これがこの好成績の大きさ力となつたのである。この高一譜君の事をいろいろ思い出してみた。

『俺もこれで君達にバトンを渡す。』俺はこの一年、一生懸命やつてきた。結果がどうなつたろうともう言つ事はない。がただ一つ、今度の君達の番だ。たのむから十一期生を盡くしてくれ。』

『俺もこれで君達にバトンを渡す。』俺はこの一年、一生懸命やつてきた。結果がどうなつたろうともう言つ事はない。がただ一つ、今度の君達の番だ。たのむから十一期生を盡くしてくれ。』

まだおぼえている、ちょうど高校が関東大会予選で関東学院を破った日、所も同じ藤沢・片瀬中、一中、栄光がリーダー大戦をやつた。……二敗。一生懸命やつたのだろう。君達としては全力をつくした

のだろう。ランニングをするその姿はかわいそう

思つた。

になるほどつぶれきつこした。にもかかわらず勝敗。何人が自信をなくしたろう。何人が「もうサッカーなんか」と思つただろう。反省会での君達の顔に「次のチャンスに」というファイトがみえたのがせめてものなぐさめだつた。しかし夏の大会では先取点をとりながら一回戦で敗退、最後のチャンス冬の大会も一回戦の対手を拙翼頭といふ不運に終つた。しかも相手千代中が準優勝したのだからくやしさも倍加しただらう。僕は大会前の一周間君達と一緒に練習したため、その敗戦を君達と同様にかみしめた。「あそこ」を一点入れていればなあじちの長い帰路の坂をみんなと話しながらだらだら下つたのをおぼえている。つかれきつた君達の顔は、負けたくやしやと、はげまされてやつとでござつた。マイドが入りまじつた復讐な表情だつた。

それならといふものは、どうにかして君達を強くしてあの勝利の感激を。サッカーマンのみが知る勝利の感激を味わつておいため努力しようと思つた。

やがて僕等十期生の時代が来たがなかなかうまくはいかなかつた。つまりはまず一日から始めた。新人戦をひかえて高二・高一が練習にはげんでいる所へ、君達中三も合同で練習することになつた。ところがこの事は高校内にも中三にもトラブルの原因となつてしまつた。

「中三は別にやつた方がよい。中三に高一に練習があるはずだ。」「いや一緒にやつた方がうまくなるし後のためによい。」等の意見がたくさん出で、結局は合同練習を続けたが、あの時は僕自身迷つてしまつて困つたものだつた。またせつ々くまんまりかけた君達十一期部員の同僚が次々に退部しこいつた事もあつた。残るは九人。その時候はほんとうに困つた。やりたい者だけ残つてそればよい。やる気のある者だけがやりとおすのだと強気でしたが、宇佐美さんの、哲チヤンの築いた堤防をみずからとりこわし、君達を流してしまつたのではないか……。これいいのか……。何か責めつけられるような氣氛で一日中考究に事もあつ

た。

そして遂に僕自身もつまづき、新人戦直前に木  
ンザをしてニケ用のスランクを作ってしまった。つ  
づいて太田も試合前日、同じ左足首を脱臼、三ヶ  
月のスランクを作ってしまった。こんな事を新人  
戦は一回戦で負け、一時部内はいつものよう明る  
さに欠けた。

そして春の合宿を三つかけに歩ならうと試み  
たのだった。あの時は先輩や高二の連中にすいぶ  
ん文句もいわれ、つまらない事や、くやしい事も  
あつたろうが、はたしてその効果は対県錦戦にあ  
らわれた。こんなことを言うとしかられるかも知  
れないがまさか勝つとは思つていなかつたので、  
技は下手だが必死になつて動き回る君達が一点、  
二点と入れた時には、僕はもちろん舌チヤンそれ  
に回りにいた高二の連中も「踊りして喜んだもの  
だ。小人数ながらも団結によりおぎなわれた君達  
のファイトがこの勝利を生んだにちがいなかつた。  
これで高まつた気分もり一々戦、関東大会予選が  
始まるとまた低迷した。

教多くの試合は、特定のレギュラーメンバーで  
行なわれ、毎日曜日、あるときは土曜日、試合場  
に行き、ホールをはこびそして、早く入れる、と  
言われ、「いったい何しに来るんだ。」と思つた  
事もあつたろう。華かな成績のかげでくやしくな  
つたことであつたろう。僕もメンバーの事ではす  
いがん考えた。試合前のランニングではいつもそ  
の事で頭がいっぱいだつた。『君達たつてまじめ  
に練習に出ているのに……。ちゃんと試合場に来  
てだれよりも早く着換えているのに……』と。こ  
のように心配が一つふえた。そして僕の頭をちらお  
つた。

でもそれも夏休み通連の活躍をかつ飛んでしま  
つた。合宿の前には練習の問題をすいがんもめた  
事もあつたが、僕が決めて内容(練習はもちろん、  
ホール入れ、タンドの手入れも)よく協力してくれた。おかげでレギュラーの関東大会への準備  
がスムースに進んだ。これが以上によかつたのは水  
戸遠征だった。「足手まといになるだけだ」  
「レギュラーだけでよい。」という意見もあつたが、

僕は文句なしに「君達と一緒に」と決めた。大きな力になっこくれると信じたからだ。衆の定、君達の舌讐はめざましく、選手は試合の事のみを考えればよい状態にしてくれた。毎日の暑い試合には、ハーフタイムに水を吸んどさてくれた。選手にとつてはまさに恩みの水だった。あの一パンが何倍の元気をとりもどした事か……。バスではもちろん席をゆずつてくれだし、ホールの手入れをしてくれたのも君達だった。

輝やく十六連勝、そして名門帝和西に嘉賞をきいたというこの成績は、全部員のたゆまぬ努力の結果だった。君達が心をこめて入れたホール練習の球ひろい。試合中の応援。これら一つ一つの事は、この好成績に貢献した。

非力、非力といわれていた君達だったが今や立派な高一に成長した。あらためて感謝する。

国体予選には張鼓鑼学に破れはしたが、敗戦から立ち上った君達だ。これを再起のきっかけとしてがんばってほしい。あのがんばりとアイトで小さな物から大きな力を生んでほしい。もう四ヶ

日、KTCにしてしっかりやつてくれ。今まで以上級生から注意され、ほめられ、やつこされたのが、もうすぐ君達の番だ。今度は説教する番なのだ。その時までに実力をつけ、充分な行動ができるよう刀をたくねえておこうのだ。

あの君達のぶんぱりが、ファイトが、今度は君達自身を得る勝利の感激としてかえつてくるよいに……。

# 十 一 期

## 編集部

七日二十一日 矢島 十期  
昨日は栄原さんから、高工に対し

貼田は栄原さんから、高工に対し

七日二十四日 石原 六期

春の合宿の時から現高一、十一。

朝生の積極性、自主性の欠点につ

いていろいろと討議が成され、現  
在の部の代表である高二、十期生  
も度々ディスカッショングをして

次の年代を背負うべき高一について  
話し合った。

「ここではその結論はぬきにして  
ただ皆の意見、その他の見解につ  
いてその春から今までの相違に注  
目して頂きたい。又高ニも高一も  
これ等の事から、又新たな解決法

正直に云つて、春の合宿の時は  
高二の一節を除いては、全体に  
いわゆる根性というものが見ら  
れず、合宿とは練習のため水遊  
ぶためのものか、感違いをして  
いるのではないか」と述べた。

「早いところ、ボールを入れようぜ。  
又文句言わねえからや」この様な  
言葉を本当に俺は卑下する。何ん  
たら消極的でかつ逃避的な態度で  
あらうか。この様な気持ちで事を成  
すのならむしろ、何もしない方が  
を見出しつづけたい。

誰かが言う「いたた」とあるが、  
「早いところ、ボールを入れようぜ。  
又文句言わねえからや」この様な  
言葉を本当に俺は卑下する。何ん  
ざざかがつかりしたのであつた。  
しかし、あれから四ヶ月経つ  
経たないのに、栄光学園高等部  
は見違える程、成長した。頗る

ます春は全面的に否定されていました  
現高工のファイトと積極性について  
て、どの程度の上級生の意見の違  
いを合宿の日誌からさぐり、又高  
一の長い分を書いてみたい。

よい。俺は高工の部生活に対する  
積極的な努力を望む。  
それにしても今日の練習後の  
木工の仕事は非常によかつた。  
俺は高工の心を疑わない。今日  
仕事ぶりについては本当に礼を  
いう。

りもまた、高工の諸君が、サッカーを自分からやろうとして高工に努力すべく努力しているのは喜ばしい限りである。

七月三十三日 小風 十一期

今近高二にいつも文句が出て来るが、今日はよくできたのではないか。いつも今日のように積極的にいきたい。春の令語にも同じことを言われている。自覺しよう。

七月二十四日 葉山 十一期

高工のひまな人達はボールがヌイテなかつた時等気がついたらヌイテれこれいいだろう。そして後でその事を注意してくれ。僕等はボトルをヌイたり、なんやかやじつも夕飯に遅れこしあう。又ホールに空氣を入れる時も手伝ってくれ。美人になる暇もない事がある。高工の暇な人はもう少し高工の仕事を手伝ってくれたらよいと思つた。  
さほどむづかしくはないが、週二

# 中学生

一  
二  
三

洗井 新一期

回の練習ではどう簡単にいふないしかし、それだからといってのんびに練習していこはいけない。むしろそれを補おうと努力すべきである。ファイトを出し練習し、また少しでも多く球にぶちわるよう心がけることが一番の方歩である。一日に球にさわるどりつてもばかにささない。昼休み、放課後と合せて約一時間の間にやつていれば、飛に対するカンもつくし、要領もわかる。それを毎日繰り返す練習をする。それを毎日繰り返す練習の日にはほんの人に早くターンで出でながら、基本技にあまり練習時間が費さないよう。練習以外の時

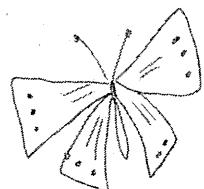
# 十三諸君に与う

十期副主将 林 茂



今から掲げる作文は、現高二が  
甲三の冬の大会に優勝した時書いたものです。現高ニと書つても、  
今こそごつつい顔つき、体つきを  
してはあります。当時は君たち  
と、体も年令もまったく同じで、  
その上、夏に藤沢一中に負けたい  
る所まで似ています。「これを読ん  
で先輩が勝つために、どれだけ練  
習し、団結し、ファイトを出した  
かをしつこ、当時の甲三に負けず  
骨をだたきあつたりして、どちら

競争つて欲しい。十二月の冬季大  
会までは、時間もかなりあるので、  
それこそ練習に練習を重ねて、夏  
の仇き一中に雪辱して、優勝力ツ  
フをもらつてこよう。君達の先輩  
たつて出来たんだから。



に備えるようにしなければならない。話を聞いてわかつたよう  
でも、いざやってみると、決して  
つまらないかない。何度も何度も  
くりかえし、上級生の教えた  
くれたことを参考にしながら、  
自分に合ったフォームなり技な  
りを覚えるように心がける必要  
はある。毎日とは無理かもしれ  
ないけれど、なるべくひまな時  
を利用して実行してもらいたい。  
-9-

いのように自分達の優勝を喜びあつた。汗と泥でくしゃくしゃになつた顔が、破けんばかりの笑いを浮べ、ハーフラインの方に集まつた。これは、僕達中Ⅲが、神奈川県中学冬季サッカー大会に優勝を決した瞬間のもようである。

試合後のあいさつなど、僕達イレブンは、相手にもかいられこそうとタランドを一周した。応援に来こくだせつた人々が、御好意にニ列に並んで、歓迎为我们を依つてくれだ。みんなの割れんばかりの拍手のうちに、ゲートをくぐった時に、優勝の感激は最高潮に達し、緊張したのか、顔の汗がひんやりするのだが、はつきりと感じられた。顔をあげてみると、真正面には、巨大なる富士山がまた毎に雪化粧されて、まるで晴着

を着て僕達の優勝を祝賀してくれようであつた。またその手前に立たれた井沢が、「よく観戦つたおれど、さう」と、言つてゐるかのようになびえていた。

恩えは昨年の暮であつた。準決

勝まで強敵を二つごとく撃破しききた、聴高三（九朔）チームは、こさつそつとタランドを一周した。決勝戦で藤沢一中に、その体力の差で逆転され、無念の涙をのんだのである。一中のキャラテンが優

勝状をもらつたのを見た時、まだそのチヤンスは意外に早く、一中の優勝の記事が、写真までついていた時に、僕達は「来年こそは!!」という意

い決意を、胸中に新たにしたのであつた。今年の正月、僕はある伸びくともせず、三対〇、優勝

を讃ねられるばかりでなく、見事

今年は僕達の番だ。去年のうら

み一中なんかたたきつぶさう！それにはファイタリーファイタリ

そして、その年賀状は全面緑色で塗られ、墨で大きく「我々と

書かれていた。もちろん、緑色は我等のチームカラーフォーメーションの番号である。そして一中をたたきつぶすの目標に、練習に練習を重ね、そのキャラテンを今か今かと首を長くして待つこいたのでした。

ふれり討ちまでされてしまい、み

です。

んなあまりの殘念にただ木一然  
とし、涙をながすものさえ、おり  
ました。

そして、次に現われたのが、さ  
らの第二回目、いや最後のチャ  
ンスなのです。試合前に「こゝで  
負けとは、みんなに頬があがらぬ  
い、是が非でも勝とう」と、強く  
誓い合い、一中戦に臨んだのです  
西チームとも、猛烈にファイトを  
燃やして戦つたため、二五分二  
二五分、計五十分の試合時間  
は勝負は決まらず、それはそれは  
大熱戦となりました。延長戦にな  
ると、練習量の相違による体力差  
で、いつもは苦戦になるのですが  
みんな「ここで負けとは」という、  
試合前の誓いを想起し、ついに  
二回の延長の末、一中を破したの

う。更に、三度もの実力の差が

あつたのだから。だが、君達だ

まにも地平線のかなたに消えよう  
としているところ。青い芝生のタ  
ランドは、一時間前に大熱戦が行  
われたなどという様子はみじんど  
もみせず、ただ晴れ渡った青い空  
のもとに、ぐつたりと横たわって  
いた。赤い夕陽に輝く白い瑞士は  
こう言つた。その言葉はぼくの下

腹に、ぐつと力を加えた。

「お前たちは神奈川一のチーム  
になつたが、まだ俺のように日本  
一がいるんだぞ。」凸

以上であるが、勝つ戦後は、な  
んとも言ひない程うれしいことが  
判つたと思う。しかし、自分達よ  
ると、優勝あるいは勝利というのは、  
味わつて見れば并るが、気分の  
よいものである。

また、「勝とう」と言つて頑張  
ること自体、楽しいことである  
君達も、もしも負けるのが嫌い  
並大抵のことではない。君達の場  
合は、一中、元氣に相当するだろ  
うことだ。

# 県地区別

5-1

5-0

4-0

2-0

大東勝

2-0

リーグ戦

第一戦 対 鎌倉学園高校

於 楠原グラウンド クレー

キックオフ 桑光

開時

EIKO  
5-1-0  
KANAGAWA

桑光は相敵練学に対し四連敗を

喫つしこいるので委縮してしまつ

て前半ファイトなく、四分敵コ一

ナーベルクからのヘツディンタシ

ユートを入れられる。しかし練学

も桑光をなめたか勢いなく、タラ

ダラと終る。ハーフタイム、スラ

ントコーチの怒るこ。後半の桑

光はチームが変つたようにものす

ごいファイトを出す。三分強佐藤

からのパスをゴール前CF大泉決め

て同点どじ、五分には敵歟のミス

キックが轟々とするところAB林中

に一分CF大泉左タッチラインか

らドリブル、敵バックの間を巧

みにねつてゴールイン。二三分

には山宮杉が同じコースとケー

スで四点目、二十九分には伊佐

藤が中央突破に成功し、クリー

ンシュート。かくして相敵鎌倉

を四点の大差をもつて破つた。

週 K 12 5 8 0 5  
E 6 4 3 0 15 壇

主審 関根氏  
副審 大下氏

(メンバー)  
阿部  
矢林  
新井  
木原  
石川  
藤村  
佐藤  
市村  
大曾  
松田

G K R L C H I F L W

Shoot

Shoot  
1(1)  
/ 4(1)  
/ 4(1)  
/ 4(1)

2(2)

-12-

EIKO

5  
2  
1  
0  
0

NICHDAI

於 楠原グラウンド クレー  
開時

第二回戦 対 日大藤沢高校

ゼネストで、土壁である本接葉終了二時となり、タクシーを運ねて行く。栄光はブランド氏がいいので返つてファイトを出し、前半八分、CF佐藤のゴロのパスをLW

松田、アラトサイドで巧みに決め、更に九分中盤からのCFのトライアンタルが見事成功。LW松田センターリング、RW喜彬石へ流し、RW

木下突込んでニ点目をあげる。一時たるんだが二七分CF佐藤誠バックスをけちらし、ペナルティー

エリヤからショート、ホストへ当り返つてくるところを石岡へ決め三点を上げた。後半栄光一時苦戦したがわりかえし、一六分CF佐藤レバ太田と渡り太田ショート、キーパーのボロを決めた。二三分にはRW木下がドリブルからショート、敵RBに当つたのをもう一度、右上

にきれいに決め、五点を入れた。松田は前半一二分敵RHと衝突、鼻骨をいためた。

松田はお株をうばられた形。前半はファイト〇。バックの巧守で無得点におこえるが見ていてはがゆい試合。ブランドさんハーフタイムに例のどうりファイトですよ。ファイトなければ負けますよ。私はわかつてますよ。後半に入るとはじめからすごいファイトを出す。一分以内に石原が中盤から敵バックをコボウヌキ、ペナルティー、エリヤの外からショートすれば見事決つて一点。しばらくまたファイトがおどろえるが、二二分CF佐藤が市村庄からのパスをとつて突つこむ、キーパーをはずしてなされ込んで一点、しかしまた庄も。どうどうタイムアツス。

半八分、CF佐藤のゴロのパスをLW

松田、アラトサイドで巧みに決め、更に九分中盤からのCFのトライ

アンタルが見事成功。LW松田センターリング、RW喜彬石へ流し、RW

木下突込んでニ点目をあげる。

一時たるんだが二七分CF佐藤誠バックスをけちらし、ペナルティー

エリヤからショート、ホストへ当り返つてくるところを石岡へ決め三点を上げた。後半栄光一時苦戦したがわりかえし、一六分CF佐藤

レバ太田と渡り太田ショート、キーパーのボロを決めた。二三分にはRW木下がドリブルからショート、敵RBに当つたのをもう一度、右上

にきれいに決め、五点を入れた。

松田は前半一二分敵RHと衝突、鼻骨をいためた。

松田はお株をうばられた形。前半はファイト〇。バックの巧守で無得点におこえるが見ていてはがゆい試合。ブランドさんハーフタイムに例のどうりファ

イトですよ。ファイトなければ負けますよ。私はわかつてますよ。後半に入るとはじめからすごいファイトを出す。一分以内に石原が中盤から敵バックをコボウヌキ、ペナルティー、エリヤの外からショートすれば見事決つて一点。しばらくまたファイトがおどろえるが、二二分CF佐藤

が市村庄からのパスをとつて突つこむ、キーパーをはずしてなされ込んで一点、しかしまた庄も。どうどうタイムアツス。

(メンバー) 選手 EIKO GKB RLB KRC LRI FW  
岡部 天部 太田 清 錦木 市佐 宮杉 松政(島) / 111  
Shoot (2) 2 2 6 (1) 2  
(2) (1) 6 (1) 2  
経過 EIKO GKB FPK Shoot (雲)  
KANTO (2) (1) 2 (1) 6 (1) 2  
新井氏

### 第三回戦

EIKO 不戦勝 KANTO

リーグ戦オマツ戦 対藤嶺高

於県営グラウンドクレー

リーグ戦オマツ戦 対藤嶺高

キックオフ 栄光 四時

EIKO 2 1 0 TOREI 0

リーグ戦オマツ戦 対藤嶺高  
於県営グラウンドクレー  
リーグ戦オマツ戦 対藤嶺高  
キックオフ 栄光 四時

リーグ戦オマツ戦 対藤嶺高  
キックオフ 栄光 四時

勝つても二一〇ではシヨ木過だ。しつおされつ。二九分七佐藤のペ  
次試合への奮起がのぞまれた。

ナルティエリヤ石からの絶好のペ  
スを△市村ダイレクトで決めて一

(経) 過 T 14 2 11 0 2 主審 松沢氏  
E 6 4 4 0 6 練習 岩坂氏

(経) G K C K F K P Shoot  
(漫)

2(0)  
2(0) X

2(0)

X

(×ンバー) Shoot  
阿部島 林川井水井原島吉成宮佐藤市木

K P R L B H C H R W R I C F I C L W

第五戦 対県立茅ヶ崎高

於 県立茅ヶ崎高

キックオフ 茅ヶ崎高

EIKO 4  
3 1 0 0

CHIGA SAKI

先日のファイトの無さにござり、  
練習の時からものすごいファイト、  
ファイトのふたまり。ところが、  
茅ヶ崎も今まで全勝とあつて、よ

くういく。だから前半まったく押

喜ぶこと。

相手校は湘南と予想していた

があにからんか湘南、両陣あ

過) C 16 1 3 0 5  
(経) E 4 9 3 0 15

G K C K F K P K Shoot

2 1 2 2 2(0) 2(0) 2(2)

(×ンバー) Shoot  
阿部島 林川井水井原島吉成宮佐藤市木  
G K R L B H C H R W R I C F I C L W  
R I C F I C L W

アロシク代表戦  
王座決定戦

県立茅ヶ崎高

対 相洋高校

県立茅ヶ崎高

相手校は湘南と予想していた

EIKO 2  
1 1 0 0

SOYO

まりファイトなくタラタラと試合は続いた。二十八分ようやく加木ンタ、敵バツクにあたつてはねかえるところを石原中距離ショート、見事決って得点した。後半もさえるところなく、十五分40松田のショートバスを江大泉少々ドリスルしてロビンタを上げ、町宮杉突っ込んでゲーディングショート、ニ点目を上げたに終つてしまつた。ろび佐藤決める。終了間際敵40にこの試合を通じ自立つたのは杉元好アレーダけだった。

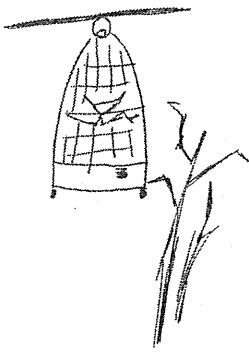
EIKO  
3  
1 1 1 0  
1 1 1 1 0  
1 0 1 0  
→  
KIBOGAOKA

会場から直接試合に行つた。相

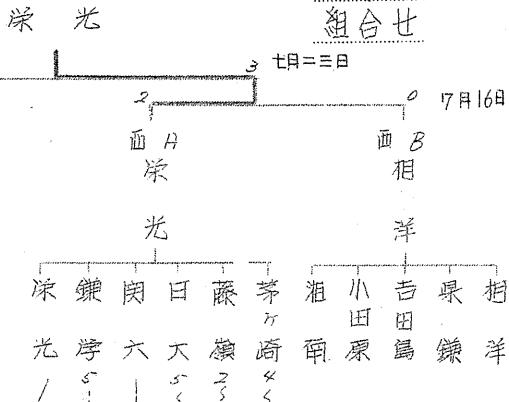
県王座決定戦勝利

対希望ヶ丘高校

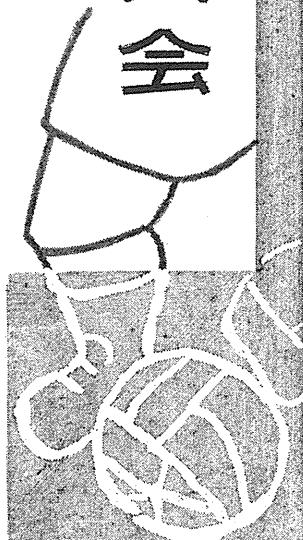
県  
勝  
利



手は慶應が多摩と思つこいたのに又も予想に反し、希望ヶ丘だった下の綱バスを江大泉がセンターリンタ、敵バツクにあたつてはねかえるところを石原中距離ショートをういて、先取点を許す。二七分榮光はようやく石原のバスを逆走し、同点とする。延長に入りCF佐藤・田島にスルーパス、田島獨走し、同点とする。延長に入り前半四分40松田のドリスルからのズルしてロビンタをキーパーが木口するこ西榮光はようやく石原のバスを突っ込んでゲーディングショート、ニ点目を上げたに終つてしまつた。ろび佐藤決める。終了間際敵40にこの試合を通じ自立つたのは杉元好アレーダけだった。



# 中学県大会



県大会第一戦 三月二十六日

対 来吉中学校

於 桃山保土ヶ谷球技場

キックオフ 十時（快晴）

光 2-0-1-1-1 未告

よく、II高野のドリブルから、越  
雷ハバスし、越雷のDロのセンタ

リントを中々村田のつっこみ  
で一忘いれたものであつた。栄光

はファイトがますますわいて、Rw  
村田のバスを、II越雷が受けとり

すとから、わりあいに楽であつ  
いた。バックスは、相手形のま

ずとから、わりあいに楽であつ  
たが、全般的に、ミス、キック

が多くて、味方をひやひやさせた。

前日の戦役、対湘南戦のためか、  
中学生は試合前にかなり、ファイト  
がもつた。

試合が始まるとすぐ、栄光Fの

後しばしば、敵ゴール寸前までせめたが、

は相手のキック、オフをうまい、  
パスよく、三分で一点を先取した。  
左のII高野、川越知のコンビが

の間、相手FとくにCFはあまり  
CFへCFがかわった。がこのボー

ルをとり、栄光ゴールまで持つ  
てきだ。しかし、栄光バックス

かけず、したがつて自分からボ  
ールをどらなかつたので、栄光  
ゴールキーバーの活躍と相まつ  
て、一氣もいれられなかつた。

又、相手Fは主将らしく高校生  
なみであつたが、よく健闘して  
いた。しかし、栄光に於ても中

一村田、佐藤、太田が活躍して  
いた。バックスは、相手形のま

ずとから、わりあいに楽であつ  
たが、全般的に、ミス、キック

が多くて、味方をひやひやさせた。

にじやまされて、ゴールへ近づけなかつたが、ショートしこ一氣決めるかと思われたが、秋佐藤(坂)の攻守にはばまれてついに一氣もはいらなかつた。

後半十五分ごろ、相手CFのドリブルを味方バックスはとれず、GK佐藤が、はじいたたまをショートされて一息返された。このあと、何回も攻められたが、相手FLが弱いため、忘がはいらすにそのままだらだらと時間がすぎ、ついにゲームセット。この試合では、LH伊東(二)と中二などがよく活躍した。

BACK	GK RB LB	藤木 野川
HALF	RH CH LH	細伊藤(勝) 伊藤(-) 村田
FORWARD	RW RJ CF LJ LW	佐藤 佐藤 横河 高野 越智

## 喫煙室



「おい手前、焼き入れるさ！」  
対曰大戦、高Ⅱ中前氏が四国から買つて来た讃岐石、たたくと美しい音色が出来るのを高工喜坂、田島西氏(二)からにたく。「栄光フアイト・テンテンテン」曰大のRB「れでしさやか頭に来て」「おい、手前、そのたたくやめろよ。いいか、こんど鳴らしたら焼き入れてやんさ」とすんだつもり。ところが高工の兩氏ひるむことなくロ々に入れてみなあ、チンくくし曰大RB君愛想をつかした。  
しかしこれでRB君は栄光に反感をもつたらしく、対茅ヶ崎戦終つて次の日大関東戦で勝利を応援じていた栄光に、「栄光ひつこり、ひつこめ」栄光の面々「関東フアイト」帰りがけ曰大RB君試合そつちウケで栄光にくつてかかる。「おい説き方の奴は待つてろよ」市村氏「おつかねいなあ」RB君「おいそこの帽子かむつてんの、藤沢で待つてろよ」中前氏がシロリと戻返すと曰が力チとあう。「おい手前だつたな。この前焼き入れもういたがつた奴」とRB君。中前氏「吠えてないで入れてみな」と、曰大が一点点入れた。六期先輩の栗原氏「ウワー、曰大いいさ。バンザイ」。曰大のRB君は一瞬「キヨトン」しあしましたファイトを出して栄光面々に喰つてかかりました。面々は七里ヶ浜の朝風を快く癒にうけ、帰つて行きました。

# 合宿日誌

7.19 ~ 7.24

## 合宿日誌

七月十九日 (火)

いよいよ今日から合宿が始まった。皆はり切つているようである。

集合時間は七時の等であったが、実際は八時過ぎであつた。キヤブテンから毎日の時間割の発表、その他注意があつた後、コーチとしこ来て下さつた。石原(デバラ)さんからやつそく明日の午前午後の練習内容を発表された。尚市村

さん、石原さんの話の時トランブルをいじつているものがいたがあまり感心されなかつた。今日は特に書きたてるような記事がないため、書くのに困つた。このような日に誌の当番に当るとは貪乞くじを引いたものだ。

一一期 吉川

までの三十分間はうるとかつた。例年のどうり体操をしてから洗面。飯は二〇分程おくれた。練習が終つて帰つてくるにシマワ一がまだ出来こいなし。アア無精。昼食はトマト、キヤブリ、キューリ、ソーセージ、メシがかたかつた。

元朝 石原

脅頭から風が出て午前よりはいくらか樂なようと思つたが実際はどうかわからぬ。おやつのお注文をしに行つたついでに貢物をしたが、店が休みの所が多く大分時間がかかつた。最後のランニンタは七回、大分くたびれたらしい。僕は練習後のランニンタは、すこし少く多くや

つこもよいと思う。少くとも練習の始めに沢山かけてしまうよりは、メシがうんと食えて状調なのに足のために練習をきなくて残念だ。

#### 十期 富野

午前中はバテたので午後の練習が恩いやられたが意外に調子よく、特に後半にはどんどん良くなり、ついにランニングの時絶頂に達した。ランニングは七回も走ったが、あと一〇周位走つても大丈夫だった。練習の途中でおやつがあり、例年のようにあまつたので、フオワードとバックに分かれてシャンケンをしたが、あいにくフオワーは負けこしまった。又モリチャーンはボールを洞くの中に取りに入つてひじの近くを切つて二針もねつたそうである。晩飯を食い始めたのは野球部が食い終つてからである。がどうにか一応無事にす

ある。飯は少し足りなかつた。  
一期 成宮

合宿一日目のオ一回の練習である。二時間の練習とはいふものの、大陽がものすごいしきおりで、黙つているのだからまらない。又一度も休みがないのである。アレースキックの時は皆バテ気味で、あまりけられなかつたらしく、全体的に午前中は少しばかりバテたが、余りくたびれこはないなかつた。

#### 一期 大久保

七月二一日(木)

#### 十期 佐藤

はじめての練習なので、いつになくはりきつたつもりなのだが、まずタラソドに出た瞬間、いたさなくてはならない。たしかに、バテ、か気がそがれてしまつた。あの暑さの上に、ほどんと無風状態だつたのだから、正におして知るべし

のである。そこで運動の効果はかならずでてくるものだ。それを信じながら、次の練習へ

十期 木下

今日も午前中は基礎練習ばかり。たいして動かないのに、元気がない。朝だからだ。松田は今日も好調である。——ヘルディンタバレーをやつた時候なんかのタルーフはどうも続かない。最悪が一三回。いい加減だれる。——いままでやったことのない練習をした。フオードがバツクをぬいていくのと並んで五米、長さ二〇米の間でやるのである。

必ずフオードが勝つ。もう一つこれはハーフラインまで、ドリスルしこ、またもどっこくるのだが、もどっこくるときの一対一をするのである。——守ちやん、映田大

ねむいと思つこいる内に飯。もつてこれをデリブルしてショートするものだつた。又バックスランニンタの時にやつと目がごめた。ヘルディンタバレー、ショルダーチャーシ等一風変つた練習も入つた。由さしは昨日より弱いのにバテる。珍らじいことに午前の練習に休みが入つたのを助かつた。守ちやんは大きがをしこしまつたので水まき。昼飯にソセーシがついた。とにかくおかずの量が足りない。水まきはもう少し考えて水をまくこと。皆が練習をするとともにまなけばむだである。

木道代もバカに引きない。

### 一一期 鈴木

-20-

今日で合宿全練習の半分以上を消化した。技術的には合宿の終った後に現われてくるがこの暑さのもとでみんなファイトを出してやつたことはうれしいこれがしたので練習をやらなかつた。

十期 宮杉

二日目、とくもねむい。アーバー、

るのではなくて、ハーフが球を出

先輩栗原、金沢、オデンの諸氏

が集まつてゐるのをきつと面白い事になるであらう。最後に文句をきうがおやつの牛乳はやめてもらいたい。他のジュースか何かにしてくれ。次の練習の時になると胃がもたれるから、明日は玉座決定戦の前日なのでファイトを出して行こう。ホンバロウ／

十期 阿 部

七回二二回(木)

醜態は許されないはず限度を知るべさだ。限度のわからぬやつはキーパー練を切つて口に出さぬが良い。特に来年の指導者たる高一の高潔な精神を持った諸君はよくわがもたれるから、明日は玉座決定戦の前日なのでファイトを出して行こう。ホンバロウ／

十期 太 田

醜態は許されないはず限度を知るべさだ。しかし途中の休みはなかなかありがたい。ほんとうにくつた。しかし途中の休みはなかなか生き返つた心地がする。次の練習でようやく元氣ができる。最後のヘデンタバレー成績は最低だつた。昨日は13回が最高だつたが今日は16回、せめて20回は走りたい。しかし10回ふえたのは練習の賜か?・まあ午後の練習にそなえて昼寝でもするか。

十期 町 田

夜演芸会をした。皆の協力がないと責任者の計画不充分によりすこぶる低調。おまけに終りが十時半過ぎ野球部も大迷惑だらう。皆やはり疲れている。演芸会の前はミーティングもろくろく聞けない様、この「演芸会」という問題はこれから合宿で考えなければならぬものであろう。不輸快な事に会の間で、阜俗な言葉が乱れ飛んだ。我々の放養ならこの様な

今日の寝起きは實に悪かつた。やはり疲れているのだろう。大田は疲不足だとかで頭がぼんやりして普段の通りにするので練習を休んでしまつた。今日ネットを持つてくるのを忘れた。誰でもよいから早く持つて行く事にしよう。練習時間が短くなればばかりだ。練習が思うように進まない。バテ気味などの暑さの為の気分のゆるみを頑張る気持は足りない。特にサイドやトラン

昨晚の演芸会が終つて寝たのが十時半、朝は早くから雜音に起つたれ、初日の朝のように眼が十時半、朝は早くから雜音に起つたれ、初日の朝のように眼がせられず苦しめたが唯一の救いは今までの二日間よりさつぱりした陽気である事である。昨日の演芸会について一言、

太田のまつこいるようにあまり下品すぎた。いくら男だけであり詩校生以上の者だけといつても腹脹は保つべきだ。実を云うと僕は抜け出して下に降りていつこしまった。チームワークを作るべき演芸会を抜け出たのだから何といわれようとは仕方ない。けれどもそのような演芸会にいられなかつた僕の気持を少しでも理解してくれ。そしてそういう事のない楽しいものとなるのなら幸福だ。

#### 十期

青 水

朝の練習は非常に疲れる。始め前から昏んなバテ氣味で、ランニングもたつた二周なのに疲れる。サイドやワントラツブの時僕はいつも疲れれる。なら人の物を盗む人がいる様だがいけない事ですね。

#### 一期 高橋

連日の練習の疲れが為か昼飯を

終ると昏睡を始めた。終じ午後

十期

矢 島

の練習開始の笛で目をさました。

始めは体が少々だるがつた。練習

でコンビの時ゴールギックの練習

をやつたが余り実戦に役に立ちそ

うもなかつた。マッチは一対一で

引き分けであつたが何んらファイ

トのかけらさえも感じじる事がなか

つた。特に明日は試合だとまうの

に、優勝を榮観していいるからよう

な感もあつた。

十期 矢島

前に云つてある様にたしかに今

日のマッチはファイトがなかつた

ように思われる。明日に重大は試合を控えていいマッチにしては物足らなすぎた。実はその点では僕自身も大いに反省の事があるのです

を利用しよう。

十期 大石

連日の練習が事実上

最後のものだらう。みんな練習中よくやつこいたように思われる。マッチもファイトがあるので別として昏睡れにも負けずによく動いていた。明日は試合だ。合宿のみんなのファイトの固を関東大会の前の一殷勝敗して発揮しようではないか。中体連の時高ニのある一部の人人がシロツブの事を文句をいつた。くばつている佐藤さんも高ニだぞ

もつと自分の本位の考え方からみ

んなの事をもつと考え方よう。

特に合宿中には。では消灯時間もせよつたので明日の試合と関東大会に良い成績を収めるようにな。

一期 小島

今日の練習は午後に王座決定

七月二三日 (金)

-22-

戦を控えているので主に高一の練習を行つたが時間が短かかつた為丸チヨンとシュテンスしきながった。試合に出る者は丸チヨンの球を出すのをやつたり珠拾いをやり疲れないようにした。昼飯のおかずは待望のかつが出来た。十分腰ごしらえして十二時半に学校を出た。

十期

新井

七日二十四日(土)

合宿の最後の日だ。午前中練習をする予定であつたが昨日二回時頃までゲームをやっていたので起床が遅れ又昨日の試合の反省会も必要だったので練習がなくなりた。朝飯後中学生が十二、十五人来た。まずOBへの報告(高校中学の指導成績)をやつた。こういう事はイヤーテンなりがりOBの集会の時に報告すべきだとと思う。

関係上例年の合宿とは内容が変つ

次に昨日の反省会では皆の動きの悪さ(タツラユのなさ)が上げられた。次に合宿全体の反省会では丸二の五人のある人から高一だけでもとおもと云われたが(スイカ)の事、あの時高一四人他は高二、三、先輩だつたんだ。又百円のスイカを少人数で食うのと百円のカンヅメを二人位で食うのどう違うのか? その大きさが異なるだけなんだ。又個人の所有物ではないか。なぜそれが悪いのか答えてくれ! 最後にゲームの時間が長過ぎた。又時間を使つて守つてほしい。

一期

葉山

一一日 暑い盛りに行われる大会であ

先づ最初に私のいたらない指導に努力してくれた蹴球部員諸君に深く感謝の意を表する。今年は関東大会を数日後に控えている。だから今度の合宿がどの位の効果をもたらすかが今一番気にかかる問題である。疲れの時は休息時間を多く取り激しく動かすに行える練習を中心に集めたので三日間で充分に回復するだろう。

暑い盛りに行われる大会であるが、若さで暑さを吹き飛ばし、悔を残さぬりっぱな試合をしてくれることを心から願うものである。

六期 石原 祐

# 聖園ハート

戦を終えて又聖園の庭を徘徊する。高二の工民突然に田ク「オイ、人々、すねえ」と「ああそれなら見るク」と、おお先のヒータリの形は見事なハート形を成して

ケヌケと「見学です、いい所でいいですよ、どうぞ」そしてまた

いたではないか。高丘氏の翁によれば「一瞬パツト」したきうな。

いだく、今度は高一の大君地も

ぐりと称する蛇を捕える。ヨーロッパが高二のもろ一人の川民、

門民ごわがつてにげる。聖園の

所なりとよく試合の勝りに中を通らせてもらう。対練学園の勝り、空は真赤に夕焼し、折りからお告げの鐘が響いて来て、おだかわス

に蛇を与える。スタはうまさう

のを踏んでしまったとか。次週の対練競戦の勝り道、もう一度聖園

に食つたとか高二の工民がうそ

のハートをと、有志が庭園を歩る

にていつた所を、マードレーへ尼

イスの夕暮を思はず頃、校舎前のロータリーの形がどうも気にかかる。先がとがつこいて頭が丸い。

につく。また笑う、なちむ假等

さん)に呼びこめられた。「あなた達」とちらの生徒さんと「醫一瞬

」「ヤバイ」とこそで高二の工民「光です」ああ、ほっとした。これ

は愛のシンボル、ハートのマークである。時に高丘の工民曰く、

川氏町田、同川氏、佐藤、同川

氏、木下、同川氏、木下、高一六

川、吉川。

「夜シャベルを持つて来て切り込みを入れようか」そしてその夜はラーメンを食べて帰る。次週対田大

しにいらしたの?」「高丘氏又

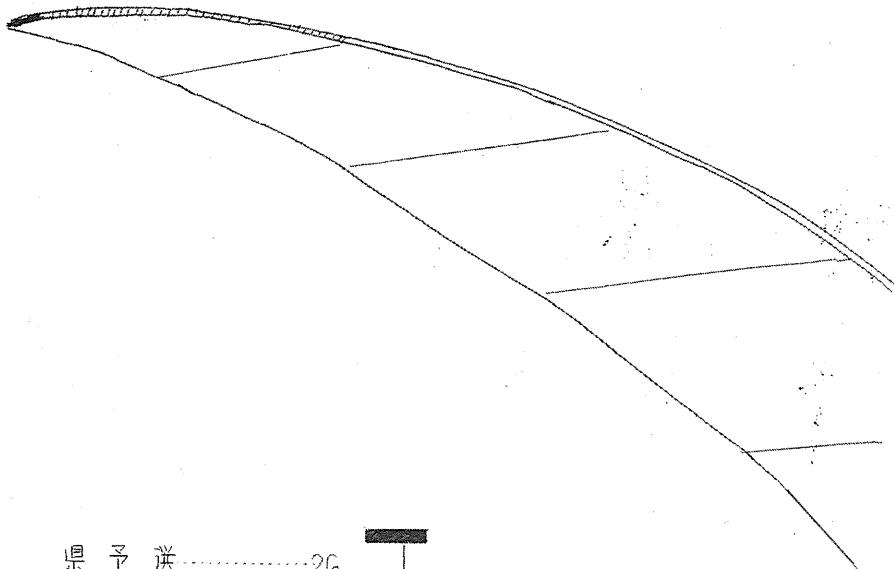
信用得ているのであちらは。「男

あ栄光の方木木……」「それで何

# 関東大会

関東高校サッカー選手権大会

準々決勝(三回戦)進出敗退



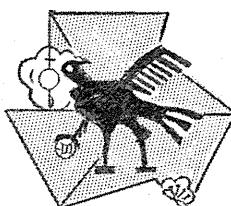
県予選 ..... 26

遠征日記 ..... 29

関東大会組合せ 30

同試合経過 31

思い出 ..... 33



# 県 奈川 神

選

第一代表決定

第三回関東高校サッカー選手権  
大会県予選は五日八日、開幕し、  
栄光は、K.O.、法政二、翠嵐、湘  
南となり、順当に勝ち残って出  
場権を獲得。なお、今大会は七日  
二十六日から三十一日まで水戸で  
行われる。

第一回戦

対慶應高校

栄光	3
1	0
1	1
0	1
0	0
2	0
2	0

又 K.O.

栄光は昨年の関東大会予選で、  
このK.O.とあたりスルと西杯を

興し、関東大会出場を目前にして  
無念の涙をのんだ。そこで今回は  
その雪辱戦なので全員ファイト全  
身にみなぎり、壮烈な戦いとなつ  
た。栄光はキックオフ一分続いバ  
スと突込みで一矢、率先のよいス  
タートをきつた。そしてすぐにト  
ロバックスもたつくところを、か  
んのよい突込みでもう一矢追加、  
スル。ドリードした。しかし、あ  
まりあつけなく、が入っこしまつ  
たため、双方共にだれ気味で前半  
を終えた。後半十分K.O.のフォワー  
ドは奮起して、よく栄光を攻め、  
又栄光バックスとモーパーとのコ  
ンビのまずとも手伝つて、敵10番、  
フリーククリーショート、二十分  
ゴール前もたつくところを押し込  
まれて一矢。ニ点献上してスル。  
となつてしまつた。このまま後半

を終り、延長に入つて前半五分  
栄光はコーナーキックを得、LB  
林がヘディングタショート、選手  
左隅に決つて勝利の一矢を追加。  
K.O.はこの一擧でK.O.、栄光バ  
ックスもよく守り通つた。タイ  
ムアツスとなつた。(町田)

第二回戦 対法政二高

立教高・松山高・大船高

EIKO 5 (5-1-0)  
0-1-0  
HOSET II

第一回戦の若い経験にこのこ  
そは始めてから破裂なファイト  
で法政にあたる。まず前半三分  
E.I.大泉、CF佐藤から受け外イシ  
クトでど真中に決める。続いて  
九分、CF佐藤ハーライン付近よ  
り40m松田にロンタパス、40m松田  
どつて縦にドリブル、ペナルティ

イエリヤ付直ミロピンタを上げ、  
CF佐藤ウントラッブ左隅に決める。  
尚も一六分△松田からのパスをCF  
佐藤とつてドリブル左エルライ  
シより右へ振つて得点、中距離シ  
ユートがバーに当つてはねかかる  
所、自ら突つ込みきれいに決めて  
四点目を挙げ、二二分には△大泉  
からのパスを△松田ダイレクトに  
シコート。左隅に入つて一拳五点  
を上げた。また前半七分敵△のハ  
ンドによつてペナルティーキック  
を与えられたが市村ねらい過ぎで  
バーを越してしまった。後半栄光  
又もフットを出すが五点のハン  
ディに気を許し仲々得点出来ず、  
△松田が突込にシコートする場面も  
あつたが得点に至らず終つた。

		(経過)		H	11	3	10	0	3	主審	審氏
		E	S	5	2	2	/	1	7	織田	町田氏
メンバー	Shoot	/	/	1	1	5(0)	3(0)	3(0)	2(0)	晴	
阿部石											
大林新											
清水原島											
石田市佐											
藤原											
大松田											
(指揮内は得点)											
GKB	LRL	HCH	WRI	FLL	W						
KR	LB	CH	H	W	R						
L	R	C	L	L	L						
第三回戦	対県立翠嵐高	翠嵐	ラン	ド	ケ	レ	ス	ル			
EIKO	5	3	1	0							
SUIRAN	2	1	0	0							
翠嵐は昨年の関東大会出場であ り、また大石の足首捻挫により、 イトで完全にカバーした。前半四 分△市村△佐藤△△松田△△ボ ールがまわり、松田切り込んで、 ペナルティマークの四から見事な	翠嵐	一時	キックオフ	翠嵐	一時						

シコートを決める。一八分には  
△市村の長距離の低めを行くシ  
ユートを蹴り、栄光△松田、△  
大泉三人で突つ込んだがその前  
に決つていた。二九分△松田△  
ゴール前△佐藤にドリブルから  
バス、佐藤が松田にりターンバ  
ス松田一步のこして左足で胸の  
すぐようなシユートを決め三対  
〇。この間大石の代りの守ちや  
んは初出場にもかかわらず、素  
晴らしいファイトとタッショ。敵  
フオワードを圧倒し、砂をかむ  
スライデンタック、すごいね  
ばりこ栄光ゴールを△阿部△共  
に死守した。後半に入つても栄  
光のファイトは衰えず二分△市  
村△△松田△△佐藤に回し、△  
佐藤と△市村のトライアンブル  
成功し、佐藤決まり、更ニ二分△△

石原のロビンソンを大泉ヘッティン  
久で決め五点目を上げた。

メンバ-	= 過	= 経
Shoot	S 19 x 30 x	GK KKKK
阿部 矢島 林 新瀬 石木 市佐 藤原 下村 藤原 田	E 6 6 5 0 28	C F P Shoot
準決勝 対 横浜高	x	x

この日栄光は二台のバスを操り  
出し、中学生およそ百名、先生十  
名、神学生五名で堂々タラウンド入り  
したが、藤沢地元の湘南高校は授  
業終了後全校約千人を集め、スラ

EIKO  
 $\frac{2}{1000}$   
 $\frac{1111}{0010}$   
SHONAN

キックオフ 栄光 二時半

阿部  
矢島  
林  
新瀬  
石木  
市佐  
藤原  
下村  
藤原  
田

GK RE B H H W R I F I W  
C L C L C L R I F I W  
C L C L C L R I F I W

準決勝 対 横浜高

於 横浜スラウンドクレー

阿部  
矢島  
林  
新瀬  
石木  
市佐  
藤原  
下村  
藤原  
田

GK RE B H H W R I F I W  
C L C L C L R I F I W  
C L C L C L R I F I W

準決勝 対 横浜高

阿部  
矢島  
林  
新瀬  
石木  
市佐  
藤原  
下村  
藤原  
田

GK RE B H H W R I F I W  
C L C L C L R I F I W  
C L C L C L R I F I W

準決勝 対 横浜高

石原のロビンソンを大泉ヘッティン  
久で決め五点目を上げた。

スパンドモ出で、本格的応援団で

ペナルティーキックを取られる。敵工

も練習していないにもかかわらず、

ースの丸塀のキーパー足元をつ

く速い口号。絶好のショートを取

中二度四、高ニ田前的好リードで

阿部足をはね上げ、球の上に自

ら下りて取る。痛場割れるカサ

最後まではりのある応援をした。

阿部足をはね上げ、球の上に自

この応援合戦に各選手大分上り気

味。前半始まつてすぐ、栄光キック

オフの球をそのまま持つに行き、

ペナルティーエリア外で山下村から

ゴール石へ出たバスを佐藤クリ

ンショートしてまず先取点を取る。

しかし、その後は湘南よく守り、

なえつて栄光はファイトニアシュー

に迫力を欠き、中盤の球をほとんど

ど取られる。しばしばゼンチにな

るが、秋阿部のすばらしいファイト

と判断力でことごとくまぬがれらる

三のまき前半終了。後半湘南は押

しつづける。栄光はピンチの連続。

前半二つとドリブル、向い来る

後半六分山下村太田のフリーキックを

敵バックをハネとばし、ついに

左隅に決める。その後栄光守備

一矢ばり、ついにタイムアラブの本

イツスルが鳴った。相手のラバ。

ついに後半六分山下村のハンドを

喜びの歓声。選手、師長、父

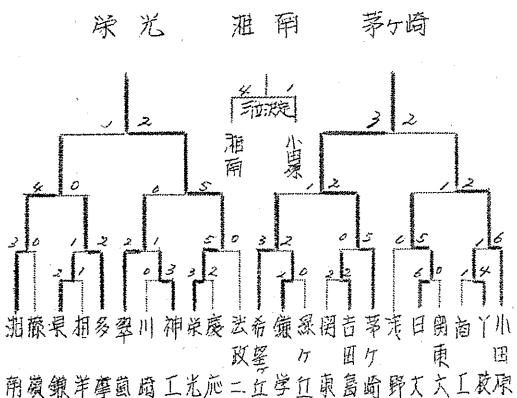
ランドコーキの目は泪でうるむ。  
ついにやつた。関東大会於水戸市  
に出場である。よかつた。

尚 GK 阿部の好プレーは跪球関係

君から県一の定評があつた。

(メンバー)

GK 阿部 大石  
RB 矢島 新井  
LB 林 太洋  
KH 清水 原下  
CH 石木 岩佐市  
LH 藤原 佐藤村  
RW 小川 大泉  
KI 田中 仁  
CF LI  
LU



# 遠征記

記

〔編集部〕

七月二六日

待望の関東大会出場が決定して  
から一ヶ月たつた今日、我々は「  
やるがし」という堅い決意をもつて  
横浜駅へ集つた。上野一〇時〇〇  
分発常磐線仙台行に乗り込み、皆  
がメック席をとり、無事、一二時  
三六分木戸についた。旅館「操屋」  
までは一〇分徒歩、皆一応落ちつ  
いた。四時まで自由時間、町で昼  
食を済ませ、五時から総合ラン  
ドで練習、早めに床についた。久  
ランドはあまりよくない。縦の  
非常に短いタラウンドである。

の心は明るい。アラッカード再び  
の女学生の利着が座れて九時二  
〇分(予定九時)より開始、采  
光は女王、群馬、栃木、千葉、  
東京につき御奈川の先頭で入場  
続いこ湘南、茅ヶ崎、山梨、茨  
城の順に入場した。第一試合は  
同郷の湘南水俣京代表城北高と  
対戦したがその敗北は壁手に休  
憩をとらせるため補欠六人だけ  
を入場させた。まことにけし  
からん話しがある。しかし、湘  
南はニシレで勝つだ。市長、そ  
の他来賓の方々二つの後援旗を  
上げ国家を自衛隊スマスパンが

七月二十七日

吹奏、終了した。藤ヶ崎商は〇、〇のまま長生一高(千葉)に引き分け撃勝した。

今日の相手は五番手予想の山梨の鶴豪曰川高であつたが、難なく3、4に押さえ二回戦に進んだ。第一日で二八校の内一二校が姿を消した。

七月二十八日

神奈川勢では茅ヶ崎安徳勝候、湘筆頭の浦和市商に当り五、六で敗北だ。湘南は三番手、前年と浦和市商と優勝を分けた浦和高にわたり合い見事5、5としとめた。深光の相手は東京ナンバーワンの大泉高と対戦。高丘大泉の活躍(一人で三得点)で3、4とこれもかるくあしらう。旅館にはノミがい、また横浜から来たという若い女性達が夜中までさわいでねむれ

ない。二日目までに二八校中二校までが姿を消した。もうベスト8である。

七月二十九日

準々決勝、今日の相手は三番手予想の浦和西高。全国大会優勝経験校である。後半刀つき(3、3)で敗れる。完敗だ。旅館に帰り、

帰り社説をして四時半迄自由時間。

二時四三分水戸発で帰京。便電で

分れた。尚石原は関東ベスト8(3、3)にサイドハーフとして選ばれた。湘

南は秩父、川口を破り決勝で浦和

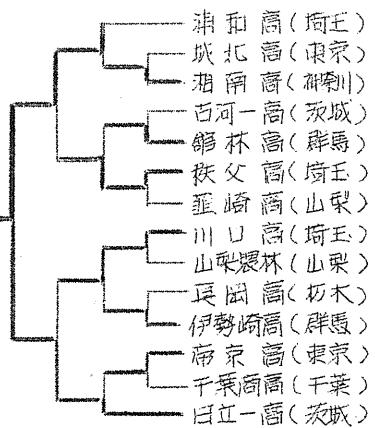
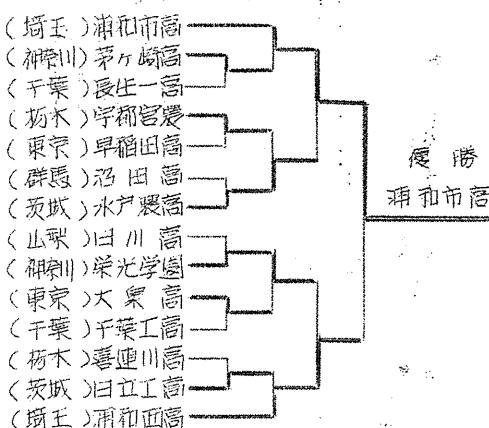
市商に敗れた。神奈川蹴球のレベル向上を示したものである。これ

を忘れて全日本大会へ向って一層奮励努力しようではないか。後輩

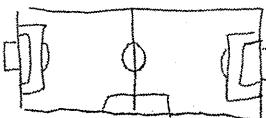
諸君もオ四回五回の関東大会へ相

次ぐ全国大会へ出場し好成績を

否優勝する事を夢めんとほしい。



# 試合経過



	P	P1	II	8
	1	1	1	8
	11	11	11	11
	11	11	11	11
	11	11	11	11

## 部集編

第一回戦 對 日川高校 セニセ

ミックオフ 栄光

EIKO

3  
0-10  
3-11

HIKAWA

EIKO

3  
2-11  
1-10

CHO IZUMI

EIKO

0  
0-0  
2-2

URAWA NISHIKO

第二回戦 對 大泉高校

ミックオフ 栄光

EIKO

3  
2-11  
1-10

CHO IZUMI

第三回戦 準々決勝  
対 稲和西高校 於 同前

EIKO

0  
0-0  
2-2

URAWA NISHIKO

日川高は新聞評ではダークホー  
スの筆頭とされ、昨年全国大会で  
も準々決勝まで出ているので油断  
のならない相手だった。前半は五分  
り、試合だったが後半栄光は依然強  
みを發揮、八分伊豆形のパスは紅  
市村に渡り、江大泉へ、大泉決め

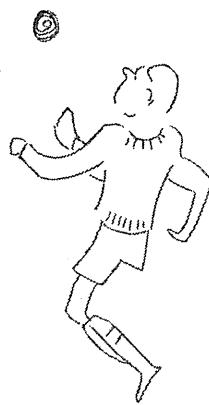
付近から敵方にドリブルされ、然  
後もそのまま逃げ切った。後半開始直後三分钟  
松田からパスを江佐藤のドリ  
ブルからセンターリング、大泉  
ハーフイングショートで決めた。そ  
のまま終了。

こ一回目、一〇分には山石原がハ  
ーフライン付近から超ロン父シコ  
ート、鬼事に夢のエールインを達  
成した。一五分に敵CFから山、山  
へまり、リターンパスをCFのヘ  
ッドイングショートで一矢を失つ  
たものの一九分には江市村のパス  
を江佐藤ドリブルから決め三点目  
を上げ快勝した。

阿箭の判断がまことに、惜しい一  
点を入れられてしまつた。押し  
つ押されつたの五分の攻防が続い  
たが三〇分前半終了間際に江市  
村からの縦パスを大泉ドリブル  
から得点。後半開始直後三分钟  
松田からパスを江佐藤のドリ  
ブルからセンターリング、大泉  
ハーフイングショートで決めた。そ  
のまま終了。

ベスト3に残った栄光は今ま  
で一戦一戦主義、先の事は考え  
ず、一戦一戦全力を当つていく  
事が成功し、どうしてもこの一  
戦ももらいたかったのだが実力  
の差で破れた。前半は栄光押し

気味に試合を匪め、田三四回敵エールをおびやかすが最後のづめが無く得点に至らない。しかし浦和はさすが名門中の名門とあつこじりじりと栄光陣内に喰い込みついに一大分に独走のショートを許してしまった。後半に入ると栄光は後半に強いといふ今近の記録も助けて猛烈にファイトを燃すが敵フルバックの正確なヘッディングにはねかえられる。一分にはGKのパスをGK大石返す所をGKにクリーンショートされ、二四分には玉一小时前で石に足に張られGKにダメ押しを入れられた。この試合を通じ浦和のサッカート神奈川のサッカーの違いを痛感した。浦和のサッカーは猛烈に走る。球をキープしこののが「いいぞ！」と声をかけると他の者がサートと走る。



		(X)ンバー)		(X)ンバー)	
		E	H	GK	RH
EK	U	GK	阿部	節石	相馬
GK	15	7	KB	大林	太杯
GK	0	7	LB	井木	太青
FK	10	5	KH	新井	石原
PK	0	0	CH	清石	宮村
Shoot	8	13	LH	市佐	藤原
				KW	而佐
				KI	大松
				CF	伊藤
				LI	山田
				LW	田中
EIKO { 0 ~ 1 }		URAKA		KIHARA	
{ 0 ~ 2 } 3		NISHI		HIKARI	
EIKO { 2 ~ 1 }		100% ZUMI		3 ~ 1	
EIKO { 1 ~ 0 }		ZUMI			

だからものすごい早々で球が進む。  
だ。又GK石原は関東ベストイレブンに選出された。以下試合経過。  
まし動きは特筆に値するものが  
多かった。又GK石原は関東ベストイレブンに選出された。以下試合経過。  
三試合を通じて形の好プレー、ろ  
う。又GK石原は関東ベストイレブンに選出された。以下試合経過。  
まし動きは特筆に値するものがあ  
る。又GK石原は関東ベストイレブ  
ンに選出された。以下試合経過。

# 関東大会の田心に出

十二期

樋口

淳



出かけまで父と大げんかして、やく上野發八時十七分の平行きにのりこんだ。僕は最初水戸へは五六人しか行くまいと思つていたが、意外に多く中三では、ムーチこと横川と機中二では相川と二人の中村と太田と佐藤、又中一からむーちこの弟を参考にして十人位になった。水戸に着くとモリチヤンが向えに来てくれた助の中央にある「操屋」という旅館につけこいつてくれた。

その日の試合は十二時半から対日川高だった。バスで十五分の大タラウンドについてテントのシートは、今でも目にかかる。

に入つた。まもなく試合がはじまるといつとしこいられずテントをとびだして中二の車中と日のカンカンこりつける中をデカイ応援旗をふりまわして必死に応援した。前半の0-3-0を終つて後半にはいり栄光は、大泉さんのショートからもムーチの弟を参考にして十人位になつた。水戸に着くとモリチヤンが向えに来てくれた助の中央にある「操屋」という旅館につけこいつてくれた。

もの一点をかえし栄光はおされぎみになつた。しかし石原さんが、自分のやめるような中距離シートをきめ大勢を走した。まったくあれど大のタラウンドについてテントのシートは、今でも目にかかる。

くる。僕達は、応援旗をぶりまわしこいがつた事はなかつた。もろそなれば、栄光のやースゴリノでおしきリオ一戦をものにした。まつたくこの時はどうれしかつた事はなかつた。宿に帰ると横川や中二の連中は、遅に心配をかけとはいけないと心配をかけたのが悔やまれて帰れど帰つてしまつた。僕も父と大げんかしたのが悔やまれて帰つてしまおうとも思つたが、電話で帰つてしまつた。僕も父と大げんかしたのが悔やまれて帰つてしまおうとも思つたが、電話をかけて親を安心させるとどう手を思いついてついにムーチをたたきこんで二点いれ安全圏に入つたかに見えた。しかし敵もさる館は一泊五百円であるから無理もないが、まったくひどいものになつた。しかし石原さんが、

ごおちおちねむれない。風呂は小  
さじしあつくてはいれない。又櫻  
座の寝た四疊は唐でも電気をつけ  
なければならぬ位だった。しか  
しそれでも皆やすらかにおねむり  
していらっしゃった。無理してあ  
つい風呂にもお入りになつたし、  
結構愉快におすごしでした。まつ  
たく高校サッカーチームのタフガイが  
にはおどれいつた。しかし人一  
倍デリケートな僕やムーチこにど  
っこはまるでヨガの苦業でもや  
つてゐるみたいだつた。

いよいよ当日 九時半からのオ  
ーゲームだつた。浦和西は、練習  
の時から栄光を压制してゐた。互  
に始終声をかけあり、まるで「俺  
達はこんなにフマイトがあるんだ  
なくこの一交あけていよいよ栄光  
代表大泉高との対戦となつた。二  
の日、大泉さん実際に三点を競手一  
ルにたたきこみまさにこの試合の  
ヒーローとなつた。それもそのは  
ずこちらでも応援するが、敵側で  
も「大泉かンバレー／マイト」と

さけんでいたからハリキつて思を  
入れたくもしごくごもつともな話。  
しかしこの試合栄光がついていた  
からいじようなものの ピンチの  
連続またぐヒヤヒヤさせられ  
た。しかし 3-3-1勝つござい  
よ、明ほは・浦和西高と対戦する  
事となつた。

いよいよ当 日 九時半からのオ  
ーゲームだつた。浦和西は、練習  
の時から栄光を压制してゐた。互  
に始終声をかけあり、まるで「俺  
達はこんなにフマイトがあるんだ  
石原さんを軸とするハックスの  
そつかりキック、等まったくフ  
マイト以外の何物でもなかつた。  
3-3-0の点差はひらいたが、ま  
つたく互角のゲームであり、も  
じ昨日のように栄光についてい  
ければ必ず勝てたと思つた。栄光  
は、先取点を事故でのがしたり  
してついいこいなかつた、しめし  
まつたく、週二時間の練習をこ  
こまでやれたのはまさにフマイト

トであると思う。いつかムーチン

#### ◎ アルバイト

#### ◎ 水戸はツーピー

がいった事だな「サツカーマイナ  
スファイトはただの遊びだ中三も

水戸到着の日、余暇に昼食を取  
りに町へ出た。喜正の幾人かは、

茨城県水戸とになると完全な  
ツーピー弁。

このすばらしい伝統をひきつぐた  
め又よりよい成果をあげるため、  
大いにがんばろう。

スファイトはただの遊びだ中三も

あらかじめ決めておいた「富士食  
堂」へ堂々と入りました。松田、

中前、松田西君政節に帰つたと  
大喜び。まず入場式「トウキヨ

町田、大石、中前はランチ、宮杉、  
新井は例によつてカレーを食べた。

新井は例によつてカレーを食べた。  
町田は例によつてカレーを食べた。

キエンコートーがツコー。ツ以  
てころがそれを注文するまでに一  
苦労をした。中前君、女給に聞い  
て曰く「MENIありますか?」

女給「ハツ?」松田君「メニユ  
ー、メニヨーですよ。」女給「さあ

かツコーし皆一瞬はつとしまし  
た。栄光のことではないと思つ

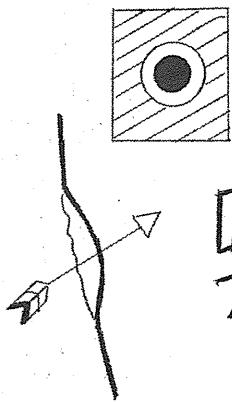
わかりません」町田君「え、わか  
らない悉く」女給「はいなにしろ

アルバイトなもんで、興へ行つて聞  
いてきます。……あの、ないそ  
です。

どうもすみません」女の女給さん  
メニヨーをなんかの料理と思つた

セーターを三枚持参したそつた。  
スルカ氏は北へ行くと聞いて、

# 煙火 喋大 室 戸 水 編



らしい。

セーターを三枚持参したそつた。  
スルカ氏は北へ行くと聞いて、

## 我が腕白の記

八期 佐久間 嚴

×月×日

練習をおりて帰路につく頃、初夏の頃と思う。海岸沿いの路を八九人で連れ立って歩いて帰る。蹴球のバーがあるかなしなに見える。

夜のことです。先生方の寮の邊に来ると誰ともなしに海に石を投げ込む。と、邊一面がぱおっと螢光燈の弱々しい光の様に一瞬明るくなる。「海ぼたる?」だが何だか知らないが、一寸何ともえらない不思議な味のする海の光景である。今でも誰かやつこいる事だろう。

×月×日

今日は同学年の者が、民間テレビ番組に出るというので、四人位

が「何處かでテレビを見よう。」いうことになり、練習後、早速に帰りかけたところ、当時中三位の自家無線が「オヤ」と思つたのか、大騒ぎしながら追いかけ来た。

彼等の年頃はとかく何かにたかりたくてしょがない様だ。五月退ならちりやしない。そこで我々が歩を早めると、塘々図にのつて追いかけて来る。どうどう我々は二手に分かれ、このテモ隊をまくことにした。丁度船越小の近くから

裏小路へにげ込んでつすずらん通りへ入ったのがいけなかつた。しばらくして、彼等がイワイ聲きながらやつこ来て、普段のさきもない本屋へ入つてニマニヤしそうへ入つたのがいけなかつた。しばらくして、彼等がイワイ聲きながらやつこ来て、普段のさきもない本屋へ入つて走り出したら、彼等がスンスン走つて轟んを飛んだ。そして大晦石淵の裏の

まかし、又、通りに出で歩きながら隙をねらつて、又手に免れにげたが、今度はもう一人の方だけうまくにげおほせて、僕はどうしてもまくことが出来ず彼等にすつとつけられごぞうたくてしょがない様だ。彼等はよらちりやしない。そこで我々が歩を早めると、塘々図にのつて追いかけて来る。どうどう我々は二手に分かれ、このテモ隊をまくことにした。丁度船越小の近くから裏小路へにげ込んでつすずらん通りへ入つたのがいけなかつた。しばらくして、彼等がイワイ聲きながらやつこ来て、普段のさきもない本屋へ入つて走り出したら、彼等がスンスン走つて轟んを飛んだ。そして大晦石淵の裏の

所を通り、銀行の裏の辺でそつと前を走らうまい気合に誰も人はいない気配だ。これでやれやれと思つたら、「オイ、くまさん」と後からメットする様な声がした。あ、何といやな奴らだろう。僕はつづづく彼等の将来のことが思ひやられる思った。小沢君に至つては「もう逃げられないぜ」なんて言い出す。まるで泥坊みたいな錯覚を起す。彼等は泣く子も黙る。機動隊みたいに大勢で僕を囲んで、湘南田舎までやつて走られたのはまつたくよわつた。その体裁の悪いこと、彼等の厚顔無恥な事。又彼等の教ような事は有数なもので、駅の中でも終始監視されたのにはほどほどのまつた。電車が向もなくやつて来て、僕は最初に彼等と離れた戸口に乗つた。そこで

ドアが閉じる直前に電車から降りたら、彼等はそれには気付かず、電車が動き出して僕の前を通る時口々を大きく開け、のどにもろがつみえたような目つきをして、教員にして僕の視界から消えさつた。最後に至つて、彼等も若ただか馬鹿やだかを暴露したのだが、それを勝利として喜ぶ気にはなれなかつた。駅の一列に並んだ裸電球が僕の心を端的に表わしているようだつた。そう、「こんな気持です。近頃のどつかの国の首相のようないただ違う点は、俗っぽさがなかつた處です。僕にも、彼等にも。

×月×日

中三連<sup>2</sup>に追いかけられた。お返しにはまもなくやつて来た。僕が定期を屏風ヶ浦から出町に変えて一週間程たつてから、小沢君と林君が早くも気付いたので、駆け出で降りるのだと僕が思つた時は彼は全然信じない風になづけと一蹴してしまつた。から、「いは一つからかってやろうと思ひついで本当のことを行つて、屏風ヶ浦さしと書つてその場を過した。さて練習の帰り、僕は彼等と一緒になつて帰つた。「急行」にのつたので、僕は「屏風ヶ浦は止まらないから、ここに降りる。ちょうどなら」云つて金沢文庫で降りて、彼等の一両後の車につつて、彼等の废弃物としやれこんだ。じつと彼等を看守つこいたが、彼等は一向に気付かず、しきりにしゃべつてゐる。次の上大岡で、林君は降りた。僕は急いで、前

車輪に乗り移つて、小沢君のこじ

なけの前の人のとなりにたつて、

じつと小沢君を見下していた。が

当人はラッシャコマリーによもや僕

が斜前にいるとは思わないらしく、

裏面目を額付で坐つてゐる。おか

しくておかしくこならなかつた。

やがて黄金町で小沢君は席を立つ

た。そしてすましに、僕をおしの

けて下りていった。曰之出町につ

くまで、人いきれの中で僕は思わ

ず「ニタニタ」とした。他ほ、小

沢君、林画眉にその話をして、定

め見せた。林君は意識せずか、

口を開いた。

×月×日  
我々がもつと幼い中学の頃のち

話、昔は栄光はもう少し未開拓、

野蛮な土地だった。草はもつと生

えこいたし、今のようなソフトの元

タランドは無かつたし、蹴球部八

期生と云うヤバン人がいた事。

これも練習後の事、練習後我々

だけが先に帰つて、後から来る力

を得て伏せるのである。先生の祭

の少し手前に、すすぐが、大分繁

茂していだからそこには身を立くし

て、先輩の近づくのを今いかかど

待つのである。

やがて大勢が近づくと、わっく

くまで、人いきれの中で草の魁を

言ひながら、土のついた草の魁を

彼等の邊に投げあけるのである。

その時先輩達が大声をたてるのが

おかしいのか、

何回もやつたものである。

「この無礼者」といえばこれまで

だが、

今の中学生にはこのぐらいの元

気がありますか。

## 作文 執筆 中

P A S S I O N

十期 中前 峻

N

私はけっか一筋の前員です。

栄光学園の蹴球部を員です。私

は前員と呼ばれ恥々しくない

前員です。と公言する人々。ど

れは今の中期・十期・十一期の

高校前員であると思います。中

学前員はまだこれからはじまる

話の対象となることは少し無理

なので除外します。何故でしょ

う。今の、いえ、栄光の蹴球部

に、その高校の部に最後までい

た蹴球部員は皆、そうです彼等

は高中学生の時入部し、入部し

てからサッカーをし、それを義

人から勝負看に目もくれず勝ち

のこつた人々なのです。だから

まだ中学生はこれからの話の対象には成り得ないのです。しかし、話を聞くのは中学生そのものなのです。サッカーを始めます。しばらくは新しさで、珍らしさで面白しくてまりません。しかし、必ず誰にさもその新しさ、珍らしさにはあきがきます。そして一時的にサッカーが少くとも面白くはなくなります。それを乗り越えます。そうすればその人は眞の蹴球部員に成りきるのです。いつか市村キヤブテンが第一期生を勵ますのにこう云つこいまして。「君達の学年は、ある時は一六人もの部員を持つていた。それが今では九人だ。他の七人は暮伍していった。君達は選ばれた人、誰にもあるスランプ。精神的スランプを克服した人なんだ」と、いまの、いや歴

代の高校部員は皆その選ばれた人、精神的スランプを克服したんだつたのです。それ故、彼等はこの最初にあったような言葉を公然と吐けるのです。今の高三も君二人も、中学時代には幾人かの部員を見ているからこそ、先のよろ公言がでざるのです。

では何が彼等をしてその「部員たる部員」にし、その困難を克服させしめたのでしようか。私はなんの躊躇もなく、何のためにらうことに云ふことがあります。「それは、昔人のみが持つ熱中」ということです。ためらいむ仕障も、周囲の反響もほんぞれを止めることの出来ない熱中といふシンボルなのです。彼等は球を蹴ること、フットを出す事、タツミ

する「ことに熱中し、また熱中したので、取を蹴り、ライトも出しだミュしたのです。やがて彼等にも精神的スランプの北風が吹きすぎました。そこで彼等は努めて熱中しようとしました。今年度は意識的に熱中して、その心に燃える火で寒風をやわらげ、自分をサッカーからはなそらする氷をとかしたのです。そして克服した後、又彼等は熱中し、今尚熱中しつづけていります。この熱中は何もサッカーに限ったことではありません。しかし、この熱中は何かサッカーに限ったことではありません。しかし、熱中すれば、そこには障害が苦痛が、必ず待ち受けているのです。雑誌を読るにも、研究をすることにも熱中すれば苦勞しなければなりません。そして私はここで「サッカーはその苦勞、苦痛

の一番多いもの一つである。」といわねばなりません。私は高一の時、あるホームルームの時間に、ある生徒が私に向っていいました。「タマードでまみれになつてあはれるよりも教室で部活動をする文化部の方がいい。運動部、特に蹴球部は雨の中でも練習をする。あれは馬鹿の骨頭だ」と云いました。私は違うと思います。それは本ヘルムである彼の答は、熱中に伴う苦渋、困難を逃避していふのだと思ひます。それでその熱中を他のあまり気の進まない方に嫉妬に向けていります。もしそうでなくても、彼のような意見のある人は、その苦難に耐えることが出来ない人だと思います。成程、私屋のしきりことは、大人の目から見ればあさはかに思えることでしょう

しふし本当に今つこいる大人であつたら、あへて反対しないでしよう。その大人は知つこいるからです。自分達もそういう熱中の時代を経て大人になつたことを。しかし、自分達のその時代を思い起こすこの出来ない人、まさに心の弱さからその時代を制御して来た人。そういう大人は眞青になつて私達を批判するでしょう。私達のこの行動があさはかに見えていいのは、その時代を経た大人なのです。若い内から生はんみな秀えを持つのは将来きっと物の分らない人間になります。人間の精神的成长の正規のルートを辿らない者は大人になつてからどこか欠けた者になります。ですから今の高校部員はシヤベルを手に取ります。くわをこりますそしてフランフラしながら、しまいにベタリと地面に腰を下し坐り込んで恥をならします。力どが

は勉強に熱中しこいるとはありませんか。美しい熱中に酔醉しているではありませんか。私達の部活（所謂、練習）以外の生活を見てみます。夜遅くまでデカンショやら何やら疑がわしい歌を歌いつくします。そして守らやんをからかい、駄洒落を飛ばします。そしてゲラゲラ笑つてひっくり返ります。練習が終ります。ホール前がテコくくなります。エネルギーは一カケラも残つてこいません、はげしい練習で、しふし彼等高校部員はシヤベルを手に取ります。くわをこりますそしてフランフラしながら、しまいにベタリと地面に腰を下し坐り込んで恥をならします。力どが

さて口飲します。待ちまわりでもきたないなどとは一つも思いません。彼等の目は輝やいています。目まいがします。しみし彼等は重い鉄のローラを引きます。やつと終ります。もう腹はペコペコなんていうものではありません。ある人が弁当を食べないでわつこいました。飯を一口づき分け合います。そして着がえをすませ、じょうじりもなく笑い歌います。しかも彼等は行きます。健全ではありませんが、この熱中く、これ程豪情しい若人の特徴美徳はありません。腹がよかろうが悪かろうが、身についている物が美しかろうと野暮であろうと、そんな事は二の次でなく五の次位です。熱中、まだ熱中の足りない諸君熱中して下さい。そして私の云う高校部員になつて下さい。

## 作文

# 二年間

十期 矢島 守治

(ボール係)

早や僕も蹴球部の一員となつて二年。その間色々の出来事に遭遇し其の度に一步一歩とサッカー部員として上達して来たような感が多分にある。

入部する以前なんだかサッカー部と言うものに対しこ憧れていた。それはサッカーに対する憧れよりもむしろ部の雰囲気と言うものに憧憬の念を抱いていたのである。当時(中三の時)は休み時間と言つて運動場で小さなボールを蹴つていた。そしていつも皆樂しそうに、又思い切り走りまわつて、そして彼等の家へ帰る時は一團となつて愉快さうに恰も兄弟の如く

親しく語らいつゝ引き上げて行くのだ。僕はこんなことに憧れてしまつたのだ。そしてサッカー自身については「非常に専らしく、又かくシマラなスポーツだ」等しか考えこおらなかつた。はじめサッカーを生れてから一回しかした事がなく、こへつたものだから、入部してからと言うものなにしろ無中になつてやつた。然し周りの物の我に比しこうまい事限りなしと言う事を知つた時には少々劣等感を抱かざるを得なかつた。そうこうしてサッカー自体はつまらぬものだと言う誤った考え方を持つようになつた。そして試合を見ても別段記憶に残らなかつたし又感激もしなかつた。こんな一年間を過ごした模には技術はもとより他の方面

でも別段飛躍的に向上したと言う  
ものはないが、然るに高一の中  
頃であった大いに奮起した。あれ  
は多分去年の関東大会県予選の対  
湘南戦であったと思う。前半は押  
しに押されていたが後半みごとな  
パスドリブルで二点を加えて勝  
つたのだ。僕はあの時の試合ほど  
活かしに沿ったものを見た事がなか  
つた。そして自分も一つあの試合  
を見たようなファイトを待つてす  
べくに對せば何事も出来ると想い、  
それからと云うものの前とは違つた  
意味で無中でサッカーと言うもの  
をやつた。そしてサッカーと言うもの  
の樂しさを遂に味う事ずら出來  
るようになつた。そして試合を  
見るにつけその兴奮に醉りそれ悪  
我慢中の応援を送る事もしばしば  
であった。試合ばかりではなく師生

活動にも非常に樂しさ涙と笑を味う  
ようにもなつた。今は恥ひたすら  
にサッカーに親しんでいる。  
こうした甲子特に高二になつてか  
らサッカー部として他の部又は部  
に入つこいな音野に対しても積極  
性を持てと言ふアピールをした。こ  
れは非常に反響を呼び創立記念祭  
處僕達の手を行な近に至つた。然  
し箭の中を見て見るがよい。一体  
部室の中でどんな所にも積極性と  
言うものが發揮せられていけるかで  
あるが、少數を除く他は皆部室  
の中では至つて消極的とは云ふる  
うか、例えば部室の掃除、タッミン  
の原稿、ボールに空気を入れる等  
々の怠を見れば一体誰が積極的で  
あつたと言えるか。外よります  
内に於いて積極的でありたいと思  
う。これが長い二年間に渡る師生

活動中の唯一のサッカー部に対す  
る反感である。前に上げた様な  
ごくつまらぬ志にでも眞の部員  
ならば当然積極的にやる事だろ  
う。そんな所にこそ却つて価値  
を出す事が出来るのではないか  
だろう。こんな反感はあるには  
あるが僕にとっては何かサッカー  
前に対してもいいばかりの好  
感を持つてゐる。合宿や試合以  
外でも授業の始まる前の部室で  
の一分間、練習前後に見られる  
くつろいだ樂しさ等々。こんな  
師友同志の間には家庭以上の親  
しさが荔る様この感覚じごい  
からこそ親密で万能のであり得  
るのではないかと思う。中学校  
の指導等を見るがよい。指導中  
は中学生を物語りつけているが

いざ練習が終ると、惜も親友の如くなるではないか。これはやはり中学生に対する愛故に、喫啜り親しげが故に親しくなるのであり、やはりここにも和の精神と言うものが見られるのではないか。僕はサンカ一郎のこの嫌な臭が無性に好きで仕方がない。

最後に、僕はサッカーの目的等と言うものについて余り考えた事なかなかつた。

然し僕は苦しみの中に楽しみを見出すと言う事、これを自分の目的として来た。

どんなに暑い炎天下の、又は寒い北風の吹きすゞ冬の日の練習がいくら苦しくとも、ファイトを取つてこれと戦う事こそ笑に樂しく、又愉快な事ではなかろうか。

を わ り

## 作文

# ワガサッカー部、 かんそく

十三期 久保田春一

—その1—

サッカー部に入つて四ヶ月目になると、最初入部した時は、練習が終ると、すぐ疲れが出て、すいぶん激しい練習をするのだなあ、と感じていた。元来ぼくは小学生時代にちよつとした病気をしたので体が弱かつた。だから、入部する前、いろいろ父兄が心配してくれたのだが、まあ何とか病気もしないで、一学期が終つたので、体の方にもすこし自信がついてきた。しかしまだ練習が終ると、すこし疲れる「何ごともファイト」という先輩の言葉を思い出して震えていた。しかし練習が終ると、またまわりのない部屋、お隣に対する懇意からであろうと思う。まどまりのない部屋、おもしろくない部はないだろう。だから、ぼくも部のまどまりについて、おおいに努力したい。

サッカー部は関東大会にまで

のスポーツは技術だけが大切と考えていたのだが、ファイトがそれ以上に重要であると、この頃は考へるようになつた。そして光学園サッカー部の人達は皆ファイトを持つてゐることは、とても素晴らしいことの様に感じられる。又筋がどこもまとまりを持つてゐることも二の四ヶ月の間に感じた。練習にして、何にしてもそこである前裏が多いのにこれだけまとまつているのには、みな先輩の努力と、一人一人のサッカー部に対する懇意からであろうと思う。まどまりのない部屋、おもしろくない部はないだろう。だから、ぼくも部のまどまりについて、おおいに努力したい。

出場して、学園では強い部であり、神奈川県では強い学園である。

そして先輩達は、頑張るふる。

マイドと、サッカー部に対する熱

意、学園に対する誇りが試合中にも練習中にも感じられ、ぼく達をよく指導して下さる。

だから入部当時は、まだ兴味をもつていなかつたサッカーもサッカー部もだんだん好きになつて来た。

そして自然、ぼくもファイトが弱き上つて来る感じだ。ぼくらの時代には、今よりもっと良い部に強い前に發展するようにお互に努力しよう。

まだ入部して間もないのに、たまに感想は書けなかつたが、またの機会に……。

## 二

### 十二期 高田直規

月日は忘れてしまつたが、今年の四月、ぼくは太田君にセレクトされ、サッカー部に入った。と云つても前からサッカー部の人壁がやつてゐるのを見て、いいなあと思つて、かうだ、すぐに決心がついたからだ。

いた。父も勿論賛成してくれた。

サッカーの練習用のシャツを貰つたときはうれしくてたまらなかつた。そこへ訴してみると、と級生の人達はとても優しく指導してくれたので嬉しかつた。僕は兄弟は弟一人だから、沢山の兄さんが出来たよほど嬉しい。部活動つていいものだと思つた。練習も、初めの中は、体が痛くて辛ひつたが、

今までようやく慣れこなして、学校から帰ると、ぐつたりして寝てしまい、夜遅く飛び起きて勉強する始末だった。母は大丈夫かと心配したが、父はその位なんだと勇ましくしてられた。僕は苦しくてやめようかと思つたが、一学期の終り頃には樂になつた。勉強と運動と両立させるのは必ずかしいなあと

ぼくは運動神經が钝くて、自分でモイモイにならが、一生懸命努力もうど思つている。

サッカー部は栄光の運動部の中でも、スマートのかたまりのものだと思つた。練習も、初めての僕につけたいと思う。

作文

応援専門家

十期 中前 峻



私は、私自身を称して、応援専門家と呼ぶ。世間によく云われてゐる、ベンチウォーマーの類いとあります。

サッカーは一人でするスポーツである。だから、あるチームにそれ以上の人数があつた時には、そのあふれた人達は当然試合には出場できないことになるのです。試合をするからには、勝ちたいのは当然前です。それには、少しでも勝利を得易いように、そのチームの内で、技術の上手な人達が、出場します。ですから、下手な人達は、いつも、どの試合にも出ら

れなくなります。これが世の中のいわゆるナニカあります。

徐光正は、この点、幹部が大いに考慮して下さった。大分いろいろな人が、まんざん試合に出場していますが、先に述べた事は避けられない事実です。今までに

か、今日でも、又来るべき年々にも、この応援専門家は、いたにちがいなく、又現在い、これからもう一回に運びありません。他の人より遅れて入部した人。舌い頃サボッた人、いくら勵んでもうまくならない人、等の者は、必ずこの応援専門家になつてゐるのです。私も

試合をするからには、勝ちたいのではあります。それは、少しこそも勝利を得易いように、そのチームになつてゐるのです。私は、その一員であることを認めます。しかし、認めはしても、決して、東京には鬼つことはしません。それは、試合に出場されれば、どんなにうれしい事はありません。

誰れども試合に出場し尽したものなのです。試合に出場できないのなら、サッカーをやめてしまおう。と思うことはあります。人がやつてゐるのを見て、劣等感にかられて、たまらなくいやになつたり、よくあることです。しかし、考えてみて下さい。私は、何をしているのでしょうか。そうです。サッカーをしてゐるのです。試合だけをしてゐるのではありません。試合は勿論サッカーの一端です。しかし、そのではあります。試合だけをしてゐるのです。試合がすぐではないのです。練習の時も、試合がすぐであります。だったら、レギュラーといレギュラーは分かれます。しかし、一緒にしているといふことは、西で、試合へでなく、サッカーへ向つて努力しているといふこ

こののです。そして、その努力の結果、うまくなった人が出場出来たのです。だれでも、その望みの無い人も正直立つて座ります。しかし彼等は部に属してゐるのであります。そつある以上は、前の為に、練習中には、他の人々ファイトをみたくなり、自分も、技術がつこいけない位のファイトを出すのです。部内の仕事も熱心にするのです。一生懸命やつてゐるうちには、それが自分の使命に思えて来ます。そうしたらしあたむのです。今度は、もう一度、サッカーがうまくならないと想います。もし運動神経がなくて、うまくれなくとも、部生活を終えて、今まで書いて来たようなことが成せたかどうか、省る時、きっと僕達には、

大なる糧を得こいことに気付くでしょう。専門家の皆さん。お互にがんばろうではありませんか。唯、部生活を一生懸命すること、それが脱落する以外に私難ができない唯一のことなのです。

## 林さん！

十二期 中川 謙

僕達の指導している林さんは、次光サッカーホの副主将であり、僕達中三の責任指導者である。僕は中三であるから林さんが副主将であるというより、中三の指導者であるといふのが、中三になりたてで県大会への意識が薄かった僕達に県大会へのファイトをわかせてくれた。僕達は中三になつてから初戦を藤沢一中と交えたが、さうして敗戦に敗北した。しかし勝負は必ずしも勝つてばかりいていいものではない。敗戦からも又

華美林さんは僕達が練習をする

林さんは君達は一歩に負けたのだ

この事を心に留めていて今度はやつつけこやるという気構えで県大

会に進むように」と述べた。儀連

はそれに励まされサル者もなく

練習を重ね県大会では一回戦で先づスムの勝利で飾った。試合後

皆若し負けたら林さんがどうした

ろうな」と語っていた。みな「

負けたら林さんに申し分けない」という気持で試合をしたのだろう。県大会は惜しくも棄権したがその後実力県下三位の六角鶴中と対戦し、堂々々々のでこれを破った。

議会前林さんは「これを破れば県下三位だと語調強く言ったがホワードは矢張り入れバックスもの意に押えた試合の後「今日は一番まで首を横しかつた」という感じのこもつた言葉が印象的だった。

## みと

十二期 佐藤

致

僕は七月二七日、つまり海のギヤンブルの終った次の日、いつもよりちよびり早く起きて、水戸に於ける関東大会を見物に行つた。

上野から常磐線に乗つた時は、あんまりゆっくりと止まつたり動いたりするので何時間かかって水戸まで行くのかとさえ思つたが、段々スピードも出てきて二時間半くらいで水戸についた。

次の一泊は、少しねぼうして九時に起きて十時に飯。それから大泉との試合を行つた。しかし二れもどうということもなく勝つてしまつた。向慶は次に行われた浦和西と日立工との試合である。何しろ両方ども、特に日立工は体のでつかいやつばかりで又、これがものすごい声をはり上げて戦うのである。日立の方は西高の攻撃に対しても、イン

スルの終つた次の日、いつもよりちよびり早く起きて、水戸に於ける関東大会を見物に行つた。

次の一泊は、少しねぼうして九時に起きて十時に飯。それから大泉との試合を行つた。しかし二れもどうということもなく勝つてしまつた。向慶は次に行われた浦和西と日立工との試合である。何しろ両方ども、特に日立工は体のでつかいやつばかりで又、これがものすごい声をはり上げて戦うのである。日立の方は西高の攻撃に対して、イン

スルの終つた次の日、いつもよりちよびり早く起きて、水戸に於ける関東大会を見物に行つた。

次の一泊は、少しねぼうして九時に起きて十時に飯。それから大泉との試合を行つた。しかし二れもどうということもなく勝つてしまつた。向慶は次に行われた浦和西と日立工との試合である。何しろ両方ども、特に日立工は体のでつかいやつばかりで又、これがものすごい声をはり上げて戦うのである。日立の方は西高の攻撃に対して、イン

スルの終つた次の日、いつもよりちよびり早く起きて、水戸に於ける関東大会を見物に行つた。

次の一泊は、少しねぼうして九時に起きて十時に飯。それから大泉との試合を行つた。しかし二れもどうということもなく勝つてしまつた。向慶は次に行われた浦和西と日立工との試合である。何しろ両方ども、特に日立工は体のでつかいやつばかりで又、これがものすごい声をはり上げて戦うのである。日立の方は西高の攻撃に対して、イン

守備。西高はタジシユの良さでたびたびチャンスがあつたが得点にはならぬ。そのタジシユの良さで思ひ出すこと。前半十分か十五分ころだつたと思うが、ハーフラインあたりで西高がちよつとボールをこぼしてその球を日立が完全にとつたと思つた。とその瞬間ナメートル位離れた所にいた西高のが、猛烈な勢いでタジシユしてきて自分の中にはしまつた。あの時の情景は今でもはっきり覚えている。

それからキックの良いこと。何ひる僕達なりもう完全にショートしこよじような時に、ボカーンと大さく蹴つてフリーな味方にパスするのである。そんなのを見ていると、「何でショートしないんだっ」と喜んでくるるくらいだ、そのくらい余裕を持つて試合をじこりたのである。しかし、その光景に乘つてしまつて、前半が終了したときには、「ひよつとする」とはどういう気持ちであるとした。だが、残念。我榮光は後半力尽きたというような形で敗れてしまつた。それにしても、あれだけかけまわつてよく六十分も持つものだと感心した。昼飯を食つながら自由時間に浦和市高と宇都宮農との試合を見たが試合は榮光がもう負けてしまつたせいか面白くなかった。面白いのは市高の応援団である。何しろ全部で十人くらい。それが又勇弱な声をはり上げて小さな声で校歌を歌うのである。元気のよいのは团长だけ。その声が妙に大きくなりえるのでおひしくおなじく、しかしそれにこりた

のみそれ以後は一度も声を出さなかつた。

このような数々の思い出のなかで、七月二十九日水戸を去るに至った。しかしこの奥東大会で学んだことはこれから自分がどうぞ、大きな懸念や参考となるだらう。



## 作文

# 私の指導法

十二期 伊東一雄

僕が将来、指導にあたつたときのやり方を書いてみよう。運動をやるときは、楽しくやり、そして上達していくのがよいのであるから、この練習でも楽しくやることをモットーとする。

まず体操は、従来通り練習の始めと終りにやる。やり方は、丸く円をつくって中に一人入り行う。この時中に入つこやる人は毎回異なる。たゞシヨンゴとにやるのもよい。そして、円の中に入つた人は大声で号令をかけながら体操をやる。これの効果は、将来何らかの指導者になつた時に恥ずかしがらずにどんどん事が行えるようになる

からである。(サッカー部の連中はみんな心臓に毛がはえているが) ランニンタは、従来の三人ずつのやり方を書いてみよう。運動をやるときは、樂しくやり、そして上達していくのがよいのであるから、この練習でも樂しくやることをモットーとする。

曲の音、「フライ」、「フイツ」、「フライ」と鳴るのがよいと思う。シユーテインタは、野球で使っている「ピッテンダマシン」のよ

うなものを使えばよいと思う。これの名前は「スローマシン」とで、もつければよいだろう。これは口も浮き球も強い球も弱い球も自由自在に出せるものである。これを使つてシユーテインタをやれば、指導者は競争者をじっくり見るこ

とができる、悪いところがわかるはずである。又、ヘッティンタの時もこの機械を使えば、コントロー

ルの保証付であるからボールは丁度ヘッドのやりよといところへ行き、強さも加減できる。だから、ミスが少くなり能率的に何となくだれても走るのは、後の方が教列になつて走るのは、後の方がになつて走り、足を合わせる時の曲の音、「フライ」、「フイツ」、「フライ」と鳴るのがよいと思う。シユーテインタは、野球で使つてゐる「ピッテンダマシン」のよ

うるものを使えばよいと思う。これが、あるから、体のどの部分へもボールが出せるというわけである。そして、バーの上にボールがあるあと、「ギアオー、ワオー」(怪人の手)と鳴るよ

うな人形を取りつけた。この人形を取りつけば、誰でもそこへボールをあてたぶんから、バクの者は自然キックがよくなるという寸法である。

終りのランニンタは、前に述べたようにして、タランドを二、三回回り、その後にインター代

ルのランニングを行い、最後に公園の端にパン食い競走のようにパンをひもにつけておき、早く着いたものから食べこよいようにする。

方の端にパン食い競走のようにパンをひもにつけておき、早く着いたものから食べこよいようにする。一人でも他人の分まで何回もいとする。

どうすれば、えさに引剥られて、皆猛烈なしきおいとタリシユするわけで、効果はぐっとあがる。このパン代の出所はどうなるかわからぬ。

終  
り

最後に整備体操をする。そして「かーかー、エイゴウレーワーク」をやつて練習終りである。

## 六角橋をギ倒す

作文

怪人

僕達が六角橋に行くと、あつちの連中は、練習もやらず、ラインを引いたり、木をまいたり、石を拾つたりしてゐた。みんなもくもくとやつてゐた。もちろん、栄光も六角橋もちよつと練習をした。

僕もさつぱりうまく行かなかつたが、その方がいいんだと思つて試合に臨んだ。左方のコートはまあまあいいが、もう一つの方は全然なつていない。ぐつと狭くなり、しかもあるところは、ぐつと土が盛り上つていて、初めこんなにたいなごとでやるのかと思つてがつかりしたが、狭い方がくたびれないと思つて試合にのそんだ。

榮光は風下に置かれた所を見るといふ、僕はこうやらじやんけんに頑けたらしい。前半はほんとに忙しかつた。とにかく、横川が

十五分以上かかつてゐたのだが、それまでのバックスの苦労は並々ならぬ努力が必要だつた。幸い敵の子が大しこうまくないのを、伊藤もよく守り、若い太田もよりやつた。前半は以後益々ファインが出て、以後誰か又点を入れた。後半はすつかり栄光没に入れた。後半はすつかり栄光没に乗つた謝子であった。三危い事もあつたが、幸い向うの確な攻撃と、バックスの好守で防ぎ、一方フオワードも裏敵に攻めまくり柴脇した。

# 村上八角橋

怪人

一中につこんばに負けている。明生は一中と同じ位実力があるといわれ、八角橋と対戦するので、ものすごいファイトをやした。  
砂ぼこりがすぎまじく、時々球が見えなくなる位の中で、栄光のキックオフが始った。栄光は風下に置かれ大変苦戦した。幸い、敵の手がレギラードないので、敵も仲々決められなかつた。しかし、十五分頃、ハーフからのパスを受けた越知が中に蹴り込み、これを横川が取り、少しだけスルしてペナルティエリアの附近から鮮かなショート。ここで均衡は破れた。調子づいた栄光はその後もよく攻めて、二十分頃山越智のドリブルシートをマーパー取りそこね、それ

を山越智がまた決めて、二三〇となりード、一方バックスも風下という不利な条件にもかかわらず、よう防ぎそのまま前半を終る。

後半は全く栄光のペースであった。八分頃、山高野が素晴らしい突っこみで見事に点を決め、絶対のものとなつた。十五分頃も、山伊東からバスを山横川取り、そのまま越智にバス。越智が快速にものをいわせて、バスを返し、鮮かなシューート。もうあと一点と思ひ、栄光ものすごく攻めまくるがなかなか決まらず、一方バックスも一回位危いところもあつたが、バックの好守と敵の粗雑さによつて、かッチリ守り、そのまま、終了のホイップスルが鳴つた。

この試合は、全員の素晴らしい

ある。特に村田(3)が欠け、塙谷を送つたが彼もよく攻め、2年生の佐藤、太田共に失敗らしいどこも見せずやつた。

試合前、十中・八・九は取れども、伊藤も素晴らしい出来を見せたのは、いつも钝かつた後にとつて、大きな収穫であつたと言える。栄光のファイトが相手を圧じた一番であった。

栄 光 父	2 2 5 0	(放)	田 未	屋 野 (2)
藤 田 野 川	藤 東 谷 藤 川 野 宮	佐 太 星 中 伊 伊 塙 佐 藤 高 越	K.B.B.H.N.H.W.I.F.I.L G.R.,R.,R.,C.,L,R.,R.,C.,L,C.,L	

# 選抜合宿

九期 石原

博

インド洋

太平洋

8月20日から24日まで、オ3回アシア、ユース・サッカー派選全日本高校選手選抜強化合宿が大宮市で行なわれた。この合宿は、全国十地域から選抜チーム（一チーム十四名）が集まつて、前期五日間に地域対抗試合を行ひ、百四十名の中から四十名のユース派選の候補選手を選び、後期の五日間はその四十名について技術指導を行つものであつた。

関東選抜チームは、地域対抗戦にそなえて16日から24日まで大宮温泉旅館に合宿した。選手十四名の内訳は、埼玉タ、神奈川、山梨、東京、茨城、栃木各ノで関東各都県の高校サッカーの強さがそのまま数字に表わされたようである。さて、関東チームの合宿はコンビを休む事だけが目的なので、基本技

は各自が勝手にやり、練習試合を三回した。埼玉選抜チームに一勝一分、埼玉教員団に一分であまり良い成績ではなかつた。チームの和は、埼玉勢が良い奴ばかりなので、すぐにハッキリまとまつてしまつた。

8月19日午後に全国選抜の合宿である大宮自動車会館に入る。20日朝は雨が降つたので食堂で開会式を行い、直ちに試合に入れる。関東はオニ試合で東北と当り、さういふこれを一蹴した。

試合中「関東カンバロー」といふるとオレは関東を代表していい。関東はバックが乱れ勝ちたつだが、東北の決して逆サイドへ振らなければ単調な攻撃に敗れて無失点

に抑える。夜になるとすぐに、岡

であることを忘れてはならない」

がプリントされてまわつてくる。

とあった。

野氏（東大コーチ）等による戦評案の定「バロック陣がこのままでは心もとない」とたたかれていた。

21日、相手は北陸チーム。主力の抜けた浦和西高に二敗しているチームなので、なかなかつた。前半、暑さに悩まされながらも、無く三点を入れた。後半に入ると逆に相手のペースに乗せられた。10分、西高ハーフライン附近からのロンタショート、ダボストに当つて入り、コートをつめよられた。ク劇以上ボールを取られてタラタラ試合を続けてそのまま終了。明日は強敵関西チームに当るというのに、この調子では先が樂じられた。戦評では「関東の技術はフマイトと出足で充分おさえられる程度のもの

マと中央を破られて、キックオフ直後に先取点を与えてしまつた。しかしすぐに坂村のカン

の良いプレーでタイとした。その後一進一退を続けたが敵センターライン（広大附属）のボスト

得点は許さなかつた。そのうちに関東の調子が出てくると、中盤は早いツツシで抑え、ウエイティン夕な敵バックの間を早いパスで回しこそで勝つこしまつた。毎日新聞の岩谷さんに、関東のバックは力強く早いツツシをもつてゐるところであつた。

23日対中国チーム、中国といつて、最も全員広島で、かけ声も「広島かバンロー」とある。前々から、センタースリーのボストプレーに、レ琰を以て大飼が決めてタイに持ち込み、そのまま終了した。引き分けなのに広島チームは違うな

だれ、中にも泣いている看もい

た。一方関東チームは互に握手をかはし、まるで勝つたようである。されどそのはず明日の対東海戦に勝てば勝率で一位になるからである。戦評は「タラソードの悪さを感じさせないスピードでイーナボールの動きのある好試合云々（岩谷）」とあつた。

26日、対東海チーム、藤枝東、刈谷など名門校の選手を持ちながら元気のない東海に対して、関東も外しきみ、それでも5-3で勝つた。これで関東四勝一分、中国三勝三分、関西三勝一敗一分の順になつた。試合終了後閉会式があり、四十名の候補選手が発表された。関東、中国、関西の3チームはそれぞれ8名の候補選手を出している。

後期合宿は引続き26日から行な

われた。午前は休養をとり午後から岡野氏と前年度のユースの監督だった岩谷氏の指導で練習をした。四十名の選手に対し、ボールは二十個である。一回一課目主義で初日はヘッド。二人で向い合つてやるのを一時間も続けると首が痛くなる。それからスローイングをやつた。どちらも腰筋を良く使うようにいわれた。26日はキック・サインでキックは二人で向き合つて、三十分位やらされた。これは身体のバランスをうまくとれるようになる。インステップは低く地をはうようなキックを要求され、ロビンタに慣れている私は苦労した。27日はペストストップイング。バスは三人一组で、二人が前を走り、後の一人にリターンバスをしながら前進するやり方。なに

しろボールが多いので休みなく動かされ相当参った。涼しい北海道の選手はこの暑さにバテてしまった。午後は三人一組になって、ボールを止めこ、すぐへた。午前一時間半、午後二時間半の練習である。一種類の練習を長く続けると、得意だと思つてゐる種目は、どんどんアラ太見ええて来るし、不得意な技はだんだんうまくなるのがわかつてくる。采光の場合、少し時間を予

一ムとしてそういう練習のためにさく率は出来ないが、二人いればばかりでも出来る事なので、基本技の未熟な人は、放課後や練習前の時間を利用して行う事を勧める。

最後に、他校の選手と比べて、栄光の選手に欠けていると思われるものを挙げておこう。  
○ヘディングタックはさがりながらシャンケヘッドをせねばならない場合が多いからこれをもつと張くする必要がある。フォワードは、ゴール前のロビンスを突込む場合、腹筋を充分使った張いヘッドしないとせり負ける。

○栄光のハーフ、インナーのゴー  
ル前へのフォローのおどいのは言うまでもないが、その他に、味方  
が敵とヘッドでせり合っている時

に、周りにいる者二人がそのコントロールする位置に入る動きも欠けている。  
○バス、岩田氏の理論によれば、パスした瞬間敵の注意はボールの行方を追うのでそのアレイヤーは敵の盲点となる。そこで、次のパスを受ける位置へ素速く入れば、マークがはずせないまでも敵の守備に少しおくれが出てくる。このようにして次々に盲点をつくって、ボールをまわし、ショートまでもつていくのである。栄光には、パスを出すとそこで立つてしまう者がいるが、それでは味方の選手が一人抜けたのと同じ事になってしまふべきである。

もう一つ。栄光のように中学生らしい者は一人ではない。ある方から高校へ続いてサッカーをやつこいる学校はあまりない。栄光は中学校から続いているという

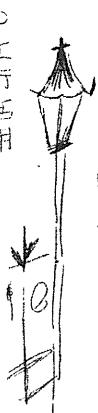
と、誰も「ふうん、それなら長期  
計画で鍛えられるじゃないか」と  
いう。若谷氏も「中学からやつて  
いるから足技が割合しつかりして  
いる」と書いた。現在の梁志  
はこの特色を充分生じているとは  
言えない。中学から、計画的に練  
習を積み重ねて高校へ上つてくれ  
ば、高校部員の水準はもっととれる  
だろうし、年度による断層もあま  
りひどくはなくなるだろう。毎年  
指導者がかわるので難かしい事か  
もしれないが、たとえば、経験の  
豊富な人に計画を立ててもらひ、  
毎年これに沿つた練習を続けて行  
くような方法もあるう。又、わざ  
と良い方恵もあるだろう。「一二三、  
三年競ばい状態の眼光を飛躍させ  
るために是非とも実現したいもの  
である。

と、誰も「ふうん、それなら長期  
計画で鍛えられるじゃないか」と  
いう。若谷氏も「中学からやつて

広くなつた二、コリマーライ、  
工兵では、リレー工工

## 喫煙

一四



○ 無難

父達といふは四日ほのヤケン

山の三田田、全國琴成で、マキ  
整理が一心地ついた所で中前が云  
いました。「おい日本語つていう

のは工段にするとすぐ駆馳に聞  
こえるんだつこ。たとえばこの木  
はもえねえーとか木を工れるとか」

市村、新井、大前、宮杉「へエ」  
市村「一つやってみるか」「エエ

テング エエケレメテレ ヘヘ  
ヘレ上で天狗さんけげんな顔をし

は吹飛ばされた。次に太田のつ  
た。残りの二日半の間、山小屋

はめったに標準着は使用されな  
くよ

○コリヤヤーライ

もう一つはやつたのが「コリヤ  
アーライ。アルチまで、アルが

きをえを喰つてスラン、その變り  
中前はその足で太田を、太田は佐藤  
をそれぐすづらせて御病院であつた。

部

外

の

人

の

話

# 山岳部

十期岳 小藤 晃

「栄光のサッカー部はどうだ。」  
とさなれたらとすれば、ぼくはこう

答えるだろう。

「素晴らしい部だ。あの団結力と  
ファイトはりっぱなものだ」と、  
事実どうであることは君達も自覚  
していると思う。残念ながらぼく  
たち山岳部はその点で君達に負け  
ている。何も勝とうとは思つこじ  
ないがせめて君たちと同じ位団結  
力とファイトがあつたらと思う。

山歩きに必要な脚・腰の強さは  
あの重い大きなボールを蹴って長  
時間走らなければならぬサッカ  
ーには絶対に必要であろう。ただ  
違うところは君達はそれをラン  
ド内で習得し、ぼくたちは階段を  
かけ登ったり、重い荷物を運ぶこ  
とによつて得るのである。それか  
ら部説を出していふこと。これは

彼らの名前からわかるよろ  
に、「ジッジュ」はいかにも新  
しく、「いろいろ」は古い感じが  
する。このように外面的な共通  
点は他にも多々あるのであるう。  
ところで山岳部から戻るサッカ  
ー部ということであるから、これ  
ら二つの部を関係づけなければな  
らないが、ちよつと考えてみると  
山岳部とサッカー部はかなりの共  
通点をもつてゐる気がする。

山歩きに必要な脚・腰の強さは  
かけた岩登りのとき、これらの  
時間結力といふものがなかつた  
としたら山岳部は今まで無事に  
は乗れなかつただろう。このこ  
とは君達にも言える。どのスポーツ  
でももそうであるが、特にサ  
ッカーはこの団結力、チームワ  
ークが必要であろう。けれども

君達はこの団結力を充分に持つ  
一方内面的な面から見れば前に  
述べたように団結力を第一にあ  
げることができる。山の長い合  
宿のテント生活、十日もあるリ  
ュックをかついで真夏の炎天下  
を何時間も歩くとき、また命を

つてゐる。スタンダの練習ぶり、

部室の中のなごやかさ、そして士

羅曰は尋暗くなつた校庭で全員が

部室へ出でてくるのを待ち、中二

から高二までが一縦にがやがや帰

つて行く姿はいつも僕が羨しく思

う。「」にも团结力が現われてい

るのだろう。もう一つぼくたちに

も君達にも必要なものはファイト、

山での生活は技術も重要であるが

何としこも頑張らなくてはならな

い。君達も苦しかった数々の試合

の中で、あの試合は頑張つたから

もあるに違ひない。田頃の苦しい

つらい練習で体力を養ふと共にこ

の頑張る精神を作り上げ、これを

僕達、君達の部の特徴、栄光生の  
特徴にしようではないか。

ぼく達が羨しく思え、それだけ

でなくぼくたちにもこれがあつた

だけが、積極性である。君

達は実際に積極的に行動してくれる。

サッカーでは攻撃しなければ勝て

ないからかも知れないが、学校の

行事などにおいてはまず「やろう」

というのは君たちである。

この積極性が、ぼくたちに、もう

少しあつたなら山岳部はもつと発

展するだろう。

ぼくたち山岳部からサッカー部

の部の人にも山を愛する気持を  
伝えて欲しい。今まで書いてさ  
てのを見ると、サッカー部の良  
いところだけだと思う。ぼくに  
は君たちの悪い面はわからぬ。  
それは君たち自身がよく知つて  
いるだろう。これから良い面を  
もっと良くすると同時に悪い面  
を改めて下さい。

ぼくたちは兄弟であり、山岳

部は、その誕生から言って兄弟

ある。兄は弟の成長を頼しく見

ていいだけではなく弟に負けない

ようがんばり、兄弟相助け合つ

て行こうではないか。

最後にぼくたちは毎週土曜日  
練習の前に集つて唱える「山の  
日詠を見れば君たちがどんなに  
男の十の旋し」を紹介しよう。これ  
は山岳部だけではなく、君たち  
は山岳部でもあると思ふ。

一 我等は山岳を愛敬す。

一 我等は心身共に着かるべし。

一 我等は岩岳の如く堅かるべし。

一 我等はりーだーを信頼し、そ  
の命に服従す。

一 我等は快活笑つて困難にあた  
る。

一 我等は常に親切すべこの人を  
友とす。

一 我等は互に兄弟歓心愛を持つ  
て助け合う。

一 我等は動植物を愛護す。

一 我等は一日一善を実行す。

一 我等は山の男とならんために  
全力を尽す。

先ず関東大会出場おめでとう。  
丁度僕連野球部の夏の大会と重な  
つて君達の晴れ姿を見ることがで  
きなかつたのは残念だつたが、君  
連が毎事に田川高校、大氣高校と  
打破つていったときはどこもうち  
しく隠ながら君連の優勝を祈つて  
いたのだが強敵と善戦し、惜しく  
敗れたりは大きな大会初出場の君  
連どしこは仕事のない事であつた。  
それにしてこそサーカー部の張子に  
は様子も非常にあざろいてゐる。  
十六連勝という記録は栄光として  
はちよつと想像もできない大偉業  
である。本当に君連の健脚をただ  
えたい。

2、△△△×△△△

野球部十期 田畠 明

この偉業の邊には僕連野球部と  
異なる背景があつたに違ひない。  
先ずやーに考えられることはサ  
ッカー部が非常によくまとまつ  
て相象的でバク然としているが、  
とにかくよく言われる高校と  
中学生の縦の関係がどどもつま  
くいつてゐると思ふ

大体サッカー部には愉快な張り  
切り者が多いうものとみえる。サ  
ッカーにおいてのみでなく校内  
活動でもみんなをリードしてい  
ることは皆の張り切りぶりを如  
実に表わしている。そして御員  
一人、一人がやる気を持つて熱  
心に練習に参加していふことも  
うらやましいことである。サッ  
カー部の練習を常に見てゐるわ  
けではないので、はつきりとわ

からないが、練習がスムーズであることはよくわかる。下級生は上級生を信頼しているし、上級生も下級生のめんどうをよくみているようである。

また少ない練習時間であれば、その成果をあげているということは、練習が合理的で、各部員が時間をより有効に利用するよう努力しているためであろう。ピーツと畠がなると皆がやつていていたことをやめこやつと集まるということは見ていても気持がよい。

更にすばらしいと思つ事は、先輩が現役部員と親しく、そのよき指導があることと、先輩達の立派な伝統をバツクにもつておられる。その伝統を守ろうとすれば、そつらい練習にも更にファイトを燃やすことができたのであろう。

スポーツ部では試合の成績をあ

るのと、練習量に制限のある候

トとたくましい体力を持つているところもうらやましい。このファイトと体力は必ずしも全員の部員に

初めから備わっていたものではないだろう。サッカー部に呼吸し、その練習を経て、知らず知らずのうちに身についた者も多いことだろう。そしてスポーツ大会や運動会、特に選歩会などに発揮されたサッカー部員の体の強さとフ

アイト、それと校内活動や遠足で見られた意氣はサッカー部というものを通してはぐくまれた産物であろう。試合に於ける成績のみで争を見せれば、それがどりもなにかと云ふ光の進歩の一つとなることは疑う余地もない。僕達他のスポーツ部員もサッカー部に

いたりは、練習量に制限のある候

をゆるすことなく、更に練習に励  
げみ冬の全国大会にも是非出場す  
るよう頑張ってまじことお願する。

## MY MEMORY

### OF SOCCER

#### ヤロイデ ルカ

私はほとんど蹴球の天才で、  
生まれたと云つてもよい。父アンド  
レオのタランドのそばで生れた  
からです。私は少さい時から、毎  
年車の中から、隣りのタランド  
の応援の声を聞いて育ちました。  
ヨーロッパでもタスリンの応援は  
すさまじいので他の国々からも怖  
れられていきました。

私の今までの三十年間の生涯は  
いつも蹴球がついてまわっていました。  
また。先ず生い立ちから云いま

すと、その頃、アイルランドでは、  
独立後の民族意識が強くて、イギ  
リス、即ち外国のスポーツである  
サッカーをやることは、学校で禁  
じられました。しかし私達は、  
誰も見てない空地などで時々やっ  
たものでした。ある日、イエスス  
会の修道院の庭でサッカーをやつ  
ている時のことがでした。突然、修道  
院の中から修道士さんが出て来まし  
た。私達を追い出すために。私達  
はそれを見るや否や、ボールをど  
毎駆け出しで逃げ出した。彼はボ  
ールを持つて中へ入りました。その  
後で誰がそれを取りに行くかとい  
うことになりました。結局、私と  
もう一人の者が行きました。その  
時は露思つこも見なかつたことと  
すが、今考えますと、それが私と

でした。修道士はやさしく、小  
使のとつたボールを返して呉れ  
ました。その時初めて私は、黒  
い服を着た人が悪い人ではなく、  
親切な人であるということに気  
が付きました。

大きくなつて、私がイエスス会  
に入ると、サッカーは一種のス  
ポーツとして週に一度位の試合  
をする程でした。ある土曜日の事、  
私が試合で、レフエリーゼ  
CFをやつている時、ゴールキッ  
クのボールが後から頭に当りま  
した。私はその時から、シャツ  
一を浴びるまで、何をやつてい  
るのか自分でわからなかつた。  
他の人の話を聞く事は、私はい  
つもよりうまく、レフエリーと  
CFを努めたそ�でした。

私が日本に来て、又神学の為

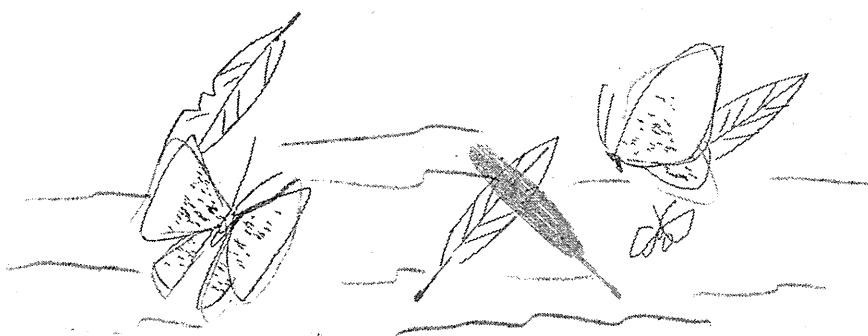
にアイスラングにもどった時に、  
私の学校のそばのタランドで石川  
のサッカーをも、ただ見る事が  
できたのです。

そして又、栄光に戻ると、運よく  
サッカー部と迎えに来れて、  
関東大会の県決勝で、湘南とあた  
ることになった時、私はその試合  
を見ていて、小さい時政術のアイ  
ルランドで聞いた応援の声を思い  
出しました。湘南の応援は千人位  
にもかかるはず、栄光はそれにも  
まして、立派に応援しました。

関東大会でも、栄光は元気に応  
援し、対浦和西との試合を負けて  
いる時でも一生懸命応援したので  
した。栄光の応援も、アイルラン  
ドに負けない位立派でした。

「あれが彼の有名な」  
リーグ戦、対日大戦前のコロ。  
日大軍早くも芝生に近いゴール  
前で練習をはじめていた。どう  
二ヘ木一フ守ちやん通りなかつ  
た。

日大キーバー早く彼を見つけて  
て購入に曰く「あれが守ちやん  
だよ。」もう一人の日大生「フー  
ン・ヘエー」小さく男の子が翻  
ひごいこ、もう一人の男の子に  
囁きました。モリチヤンこま  
へるだね！」



# テヴェイエーク池

ストップ

財田大戦は土曜日モックオフ二時半の急タクシーで行く。藤沢に入ると運転手をからかっていた唯野氏がいる。赤い屋根の「精神科」に書いた看板を指さして「おい大石、なつかしいだろう、中前も。」大石が続ける「おお、俺のデヴィコーの池よ、あん時は七対一だつたなあ。皆「元気」と一同爆笑する。大石がいう「なんだ、あれ先頭中じやないの？」

## 頭でドルスル

村第ヶ崎戦、前代未聞の珍アレーハあつた。ファイトの栄光は敵コール前での佐藤君、頭で三度ドリスルして市村へバス、市村鏡で尚もドリスル、ついにコールをはずしたという話。

我等の木一丁、守ちゃんの自動車ストップは特技。偉大なキヤリマー特主で吉くは一年年の対希望ヶ丘戦に、希望ヶ丘反町のヒツチハイクを皮切りに、昨年の早慶ナイターではその流年英語で外車を乗り廻し、いかんなくその技量を發揮した。りく戦や五戦優勝をかけた対茅ケ崎戦でも、あせることなく上大岡から歩き、二十分後にはあざやかに高級乗用車をかまにし、しかも某鏡のタラランドまで有料道路を通らせて、横付けにしたそな。役にはどの日の勝利は意の中にあつただろう。役に乗組は遂に沼の位置を立派に果し、光光の全勝優勝に天に讃嘆した。

### 玉屋のラーメン

藤沢の駅の近くに、藤沢唯一の四十円でラーメンを食はず「玉屋」を営む店がある。対翠嵐戦の帰り五点を入れて適氣湯々とラーメンを喰つた。ところが次の練学戦、また五点を入れて、調子にのつてラーメンを食つた。ところが、次の対戦は大戦、思事五点入れた。皆玉屋ラーメンの因縁と見て、次の日の相手関六の乗組に乗じ、ついに皆は三杯食つた。さて次の対藤繩織、方に計らんや、得点わすかにニ点。そこを又玉屋へ入る。

「お前をさん、二杯食べただのにニ点だよ、チヤシコーヒーねいだんじやない？」さて町田君の計によれば、藤沢に「鉄カブト」というソバを食わす店があるそうだ、どこかに。

○藤沢一中のこの試合の時、観衆

でも、気持だけは若いんですね。

藤沢の駅の近くに、藤沢唯一の四十一中で、くだらない連中、駄洒落

を言ひ事しきり、二、三紹介。

○氏、越智イー オチノムするな、

○奇説

五点を入れて適氣湯々とラーメンを喰つた。ところが次の練学戦、

丁氏、越智イー オチツイテケー  
川氏、帰り道で、南和高と相南

スランドさんが、今日、ハーフタイムも試合後も、「負けますヨといわなかつた。

また五点を入れて、調子にのつてラーメンを食つた。ところが、次

の対戦は大戦、思事五点入れた。皆

相南のやう、ハ一中だな。

玉屋ラーメンの因縁と見て、次の

○大いなる自負

○諸隊おとぎばなし、

王屋ラーメンの因縁と見て、次の

○相南高校の補欠なししました。

昔ある所に、中前という人が

に皆は三杯食つた。さて次の対藤繩織、方に計らんや、得点わすかにニ点。そこを又玉屋へ入る。

「栄光不運だな、危壁のスロウク  
に入つて」。又何とかいまして、

いました。ある夏の日、後は、友人達のキヤンフへ特別参加し

「お前をさん、二杯食べただのにニ点だよ、チヤシコーヒーねいだんじやない？」さて町田君の計によれば、藤沢に「鉄カブト」というソバを食わす店があるそうだ、どこかに。

「栄光不運だな、危壁のスロウク  
に入つて」。又何とかいまして、

ました。その日の夕方リレーが始まりました。(一組四人)が

「お前をさん、二杯食べただのにニ点だよ、チヤシコーヒーねいだんじや

「栄光は今日位の相手なら勝つだろう。でも相南とやつてまけるぞ」。永ぐのです。アンカーは大田氏

と中前という人でした。大田氏は米永の名人などに太田氏のチ

バを食わす店があるそうだ、どこかに。

○ロマンスアレイー

丁氏曰く、「茅ヶ崎は、女生徒が死後に秉ていいな」白髪が生え

スランドさんが、今日、ハーフタイムも試合後も、「負けますヨといわなかつた。

(対翠嵐戦)

んで、タロールを始めました。

どちらがしばらく行くと突然に何を思つたか神に向きを変え承ぎ始めました。

葉山氏が救助隊旅圖案を出しましたが、その必要はなくなりました。彼(中前)という人は(又)向きを変えて、もとの岩に戻つて来たりです。彼は目を上げ苦しそうに息をして、岩を見上げました。そのとたん彼の顔には失望の色があり、アリと云ふのがわされました。なしろ彼が見た人は、今さつき、自分にタッチした人だつたのですから。彼は、そのすぐ後こうじう言葉をいいました。「平泳でやつていればなあ」として次のレースでも、中前(=)いう人は、平泳で、太田氏に破れました。

おはり

んが、お母さんをなぐさめるため

○七月二〇日

バテタタ今ミーテイングの最中。

練習後の七回は多過ぎる。しかむハーフマラソンの後でした。一日目だからまだいいようなもの(ニ日目)からが思いやられる。泣き言はそ

れ位にして面白い話を一つ。…

後日二三日県王座決定のカツブ

を取つてると、中前に会つた彼女「カツブ見セテエーン」と

云つたそらな。ゴンベのカマチ

ヤン氣が多いが

松田

村に、氣があるらしい。何故かと

いうと、ボクと中前が食事を行くと、かのおばさん曰く、

○真夏の夜の苦悶

-65-

「この前よくきた背の高い人へ足の長いとは言わなかつた」どうしにタッチした人だつたのですから。たの?」「どの人ですか?」「あのいい男だつた?」「そりをいいました。」「平泳でやつていればなあ」として次のレースでも、中前(=)いう人は、平泳で、太田氏に破れました。彼は、そのすぐ後こうじう言葉をいいました。やつて市村が行く終った段だが余は奥に不調その食えなくて、又メシのましいつたら今日の夕飯見てくれよ。あなたは生まれたとき、ち産婆さ

のもの。まぶたがどうんとして

に云つたの以来で大喜び。守ちやんのことを探ねると、「あんたもいよ。大丈夫だよ。」

後日二三日県王座決定のカツブ

を取つてると、中前に会つた彼女「カツブ見セテエーン」と云つたそらな。ゴンベのカマチ

ヤン氣が多いが

後日二三日県王座決定のカツブ

きた。寒にねむい。

10、30 三のもの。あついなあ。

積木がいない。ムニマ／＼。

11、30 木むれな。おつい。大

石いいびきうるせえはあ。手をの  
ばして二奴の轡を、えい／＼轡収。

11、00 多分一時頃だろう。：

あつい。阿部のやろう、もこう行  
け。：：：いつちやつた。あああアも  
明るいさ、もう朝かい。

5、00 ボーッ！ハッノ（船の  
汽笛を目がさめた）オツ／＼なんだ  
明るいさ、もう朝かい。  
5、00 誰だエソコソやつてん  
の。全くうるせえなあ。頭がシン  
シン

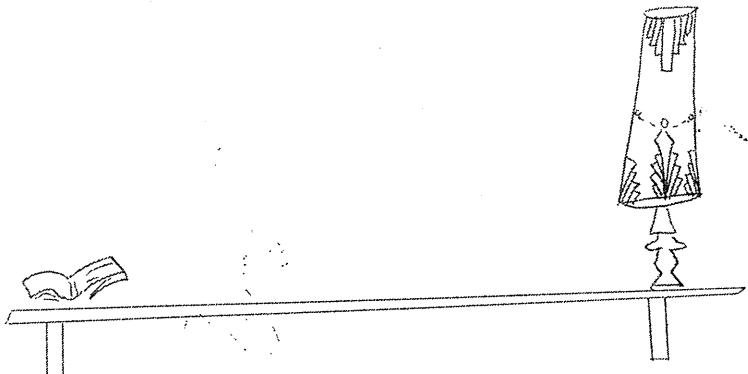
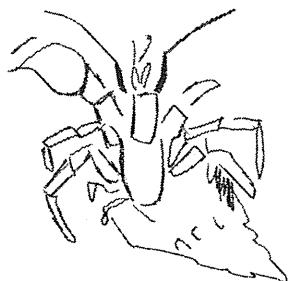
6、00 57、00 みんなねてる  
テクシヨウ。石原さんが勉強して  
んな。毬球部がやかましい。：  
吉川が何か食つくるよこせ。ムニ  
マニヤ。ヒリツヒリヒリーツどう

とう来やがつた、市村め！

◎ 藤次駄

列車危車のベルが鳴る。キヤフ。

テン市村君はあせる。十円玉を出  
して駄賣にせかせら（藤次、／＼  
早く／＼）。駄賣「キヨトン」市村  
君、「おい藤！」大船一枚！」



八日三日から七日まで丹波の山  
小屋で高ニの念眉があつた。高ニ  
の義節員は、新井、看木、中前、  
林、阿筋、松田、木下、佐藤、市  
村、町田、雪村、富野の一三名、  
高一から宮坂、吉川、それに高三  
から大前氏が参加、總勢四〇人の  
キヤンスの内、一六人という大人  
數をじめた。

八月四日

三峰遠征

四日の朝、皆はリュックを背負  
い、頭にはほんどのものが、麦  
わら、といいたいが、キヨウギ斐  
のニセ麦わら帽をかぶつて、小屋  
の前に勢そろいした。丁度今から  
三峰へ行こうという所だ。「シヤ  
ツカーノルチは小屋へは總勢一六人  
元気で行つて来ます」と云つたの  
はいいが、すぐにあのつまらない  
尾尾々根だからいやになつこしま  
藤、阿筋、高一の吉川、成宮は泥  
う。登りも相当急である。我等サ  
殿。」やっと塔までの半分来た。

8.3 ~ 8.7

# 丹沢山行

ツカーノルチは小屋へは總勢一六人  
と誰かが云うと、ノルチは大声  
で「イヤ、マタマタ」と張口つ  
てゐる。暑くて着ているシャツ  
はもうダランダラである。その内  
に松田はデンスケがバテタ海?

同伴して小屋に戻った。やつと表  
尾根に出て、馬の少し手前の急な  
上りを元気にのぼる。そこを杉  
が石をエロツとやつた。アルチが  
すぐに、「落石に、気をつけテ  
モラウヨ」と云う。そういうして  
やつと塔の尊仏小屋についた。ま  
だ朝早い為か、人もまばらである。  
ここでお茶を存分に呑んだ。おわ  
りの方は、わずかにお茶かどうか  
多いこいる茶かすでそれと知られ  
る程だが、大前さんはいつも  
ながら、大きなりュックをもって  
来てしだが、ここから引き返しこ  
しまった。丹沢山までの上りも下  
りもほんざまわりの遠景は見え  
ないが、道の両側の木々が大変に  
美しい。時折、下から雲が流れて  
来て涼い。丹沢山頂で昼飯を食べ  
る。朝炊いに飯ごつのあしに、伝

話をかけて食べる。食後三分程  
して行動を再開したが、それがな  
んともいえない下り、「ああ、早  
く上りにならないかなあ、ひざが  
かクかクだ。」この下りで雲松は何  
と六回にわたつてすべつてころん  
だ。之内に、オ一峰の上り、  
ああ、早く下りにならないかな。  
ここ一峰に着いた時に、  
には、もうつらつらである。これ  
から又、二つ峰を登るのかと思う  
とげつそりした。やつと三つ目の  
峰、本間の頭につく。ここを休憩。  
りユックから水等を出して飲んで  
いると、木下が自分のまくわうり  
を出した。直ちに「よう、世ちゃん  
んとか「世ちゃんサンキュー」と  
か「まとうだなあ」と美辞麗句。  
が並ぶ。世ちゃんはそれをナイフ  
で一切れ一切れ分けたのだが、も  
詰をしあげてシースの素をな

らつて口に入れろや否や、脂少  
ロから一首に「うわー、ますい」  
「吐気がしそうだ」「もらわな  
ければよかつた」と言葉がもれ  
たのだからまたたくである。そ  
うこうする内、又出発、少し急  
な下りをしばらく下りる。太田  
はなクがクして間節が少子がテ  
になつたそつた。次はヤマの中  
を通るのである。長袖の着はい  
いが、半袖の者はたまらない。  
そこを通り越し、又少し下つて  
すマツである。シマムを一ビン  
我部でせしめて、皆ゴテゴテに  
パンにつける。ナイフで塗るの  
がもどかしく、手でつける着も  
ある。かママちゃんではないが、  
なつまとうだなあ」と美辞麗句。  
山的になんでもするようになら  
が並ぶ。世ちゃんはそれをナイフ  
のだろう。手を持たないものは

める。そこから林道まではわざか

であった。林道に出こからは自由。

町田、畠野、宮杉、中前等は急い

で帰つたらしい。小屋の下の沢に

ウルチ自慢のアールがあるからだ

ろう。僕は林、太田、木下、新井

等と沢へ降りて水を飲んだりして

ゆっくり帰つた。  
清水征四郎

八月五日

全員で泥濘、新ひろい。その後  
小屋の裏から沢向こうの水道の源  
まで行く釣り橋の周通式があつた。  
校長、スンテン両氏の乗賓を向へ  
のよろなスイカを頬張て無事終了  
した。

八月六日 ヤケン登り

天登りは山小屋での四日目、つ  
まり八月六日に行なわれた。二日

目には、第一両沢—三峰ニ歩いて  
全員泥濘したので、疲労はほん  
ど残つていいない。由さすやケン沢  
は、山小屋の前を流れる沢の上流  
へ歩いて水を飲んだりして、  
沢の分歧点までゆるやかな山道を  
歩いた。この分歧点の所でわらじ  
にはき代えるのだが、このわらじ  
が曲者で、タグはき方を天狗さん  
まで行く釣り橋の周通式があつた。  
校長、スンテン両氏の乗賓を向へ  
思ひ出せない。どうどう相障の票  
原に教えこもらうハメになつた。  
天登りは、バーティーを二つに分  
けて、先に行く方には天狗さん、  
後の方には爾野先生なりバーティー

なつた。沢の水は冷たくこ気持ち  
がいい。そこで休憩。これからはいよいよ最後  
の石がゴロゴロしたがれ場などの

で一息入れて、というこらじいが、途中止しかったのと、かママいたりして気がまぎれたせいか、全然ゼンゼン。特に二日目に遙に行く途中でどうこうバテこしまつたM氏へ体中心穢であると言われこいる)等は現金を程元氣があつた。いよいよ最後の登り、だんだん足が狭くなり、木にいつの間にかなくなって両側はさわったらくずれそうな岩ばかり。先頭「オーライ、この石絶対にさわっちゃいかん」と申ごろ「オーライ、俺の命をわつておる石にさわるはよ。」勿論これは冗談。この石、最後にうなづく。つかれていたら、ここでみみると、次から次へと上が見えてくる。つかれていたら、ここでみみると、次から次へと上が見えてくる。つかれていたら、ここでみみると、次から次へと上が見えてくる。つかれていたら、ここでみみると、次から次へと上が見えてくる。つかれていたら、ここでみみると、次から次へと上が見えてくる。つかれていたら、ここでみみると、次から次へと上が見えてくる。つかれていたら、ここでみみると、次から次へと上が見えてくる。つかれていたら、ここでみみると、次から次へと上が見えてくる。つかれていたら、ここでみみると、次から次へと上が見えてくる。つかれていたら、ここでみみると、次から次へと上が見えてくる。つかれていたら、ここでみみると、次から次へと上が見えてくる。つかれていたら、ここでみみると、次から次へと上が見えてくる。つかれていたら、ここでみみると、次から次へと上が見えてくる。つかれていたら、ここでみみると、次から次へと上が見えてくる。つかれていたら、ここでみみると、次から次へと上が見えてくる。つかれていたら、ここでみみると、次から次へと上が見えてくる。つかれていたら、ここでみみると、次から次へと上が見えてくる。つかれていたら、ここでみみると、次から次へと上がりきった。雲が時々やつてくる。その上見晴しか良いのだから、そんな道にもたじりこ居にならず、無事

の声が近くなつたなあと思つたら、寝上へ、弁当は、弁天の頭とい急に目の前がひらけて表尾根の三う壇上から少し下つた所で食べだ。おかげはソーセージの缶詰後続の者を待つてゐる間に見た風景は、二日目に長尾々根から見たそれとは大分変つていた。赤い山食餌皿々盛んで、事食ラことに帆を出しこしるかしが、前よりは断然多くなつたように見えだからだ。なぜだかは知らない。周りを見こして、全員尾根に出たのを見こしてゐる内に、全員尾根に出たのを見こして、三の巻に登つたが、この山が又曲着で、娘上らしいものがすべり下ることになつて、天狗さんから、やスはおがみながら下れは良いくことを教わつた。ここでは、このヤスを下つて、大きくな浮石があつた登りの時、やルチが一番後で浮石を庇付けたのを思い出しにのむか、誰かさん「オーライ、最後の奴、この石を下に落しこおけよー」危一皆殺しにされる所だつた。ヤスを抜けろと今度は杉の林。見通しがざ

くのと太り下り易い。気持のゆど  
りが出て来るに考るるはこんな  
事。佐藤「ねえ大前さん、こうい  
う所には蛇が多いんだつてさ。」大  
前氏「エ、本当かい。」太田「アッ  
蛇だ。」大前さん「キアーノイ  
ほんとにやめてくれよ。頼むから  
エ。」その後も皆の集中攻撃にあつ  
た大前氏、遂にヤケクソになつて、  
「蛇なんかヘイチヤラサー。」その  
間にも道は下つて、スナと杉の混  
合林。「ここを見つけたのは絶好の  
遊び道具フジツル。ターザンの如  
く飛びには飛んだが、飛びすぎこ  
手を離す決心のつかない者。決心  
はついたが手がはなれてくれな  
い者。飛び降りるには降りたけれ  
ども足ないうことを聞かずに、や  
むを得ず地面と体を平行にする者  
等、それされ個性を生みした飛び

方を見せているうちに、後からサ  
ッソウとやって来た藤先生、ムン  
ズ、サツ、スラー、ストン、オー  
ヘおどろきの声、ニタニタ。かの  
モナリザのそれにも例えられる世  
にも不思議な微笑をもらしたとい  
うことだ。こんなことをしている  
内に、ヤゲン次の分歧点近くに出  
られると、小シバ次に出会い、そこで  
天狗さんの注意を聞いて、次下り  
？をはじめたが、この沢には水  
が無く、岩がヨロ／＼しているだ  
けなので、下りるのにヤゲン次よ  
り長く暑く感じた。本流のせせら  
ぎが聞えはじめるのと、沢に木が  
見られるようになつたのはほとん  
ど同時にあつた。そして、そこか  
らヤゲン次の分歧点までは、水を  
見て元氣になつたせいもあるが、  
すぐ近くだった。行きにわらじを

#### 八月七日

朝ミサがおつた。すぐ後水た  
き、精塗なし、帰り支度を固  
めた。玄関でかマサンにお礼の  
工糸を贈り、バラバラに帰つた。  
もう一度泳いで帰つたものや、  
のみ峰縦山を帰つたものもい  
た。

はいた分歧点を食べたオヤツは  
パンとシュース。どちらも搭別  
おじしく食べられた。(ここをわ  
らじを靴にはきかえ、再び林道  
を通つて山川屋に三時半頃着い  
た。今日は松田が終止先頭に立  
つていたことからも分るようにな  
った。樂々、樂しく、ちよつびりスリ  
ルの荔る沢登りの一日であった。

富野輝一郎

8月27日～30日

諸機遊小

# アリ記



武ちゃんを始めとする、蹴球部  
員の有五人。追手集合九時、例の  
如く又例の如し。(武ちゃんは下  
を向いてクスクス笑うし、小島は  
小島で、東シロウエーと一緒にフ  
ラミーをやりこちります。特別参加の  
イルムを廻りに行つております。  
西川も又、平常と變りありません。  
皆様の御想像にまかせます。)

雪野さんの失敗談。フマノヨー

諸機入口つて」とこのヨー、カド  
を出つたんだあ。そし近らカ  
イツまで行つこもサ一、毎の家  
うしい所ないじやん。変な所に  
で立ちつてヨー、結局帰らやつ  
た。彼の話を聞いてうけ答えし  
こいと何だか自分まで記憶本  
。サ一。とか、ヨー、とかなる  
様でなんとも変である。当の本  
人、私、不肖、田島卓也は金の  
計算に必死。普段の不勉強が仄  
たんでじよう。いつまでたつこ  
もできません。しかし、手の指  
と足の指とを使つてやつとでき  
ました。

諸機はイナカである。我等六  
人勇んで海の家へ。イナカであ  
ると述べたのは理由がある。そ  
れは、本々としたくいや、そう

でもない）暇や、興まつた一室より汲み出しこ、野にさうしてある。私が至る所にあるからである。私は（いや、他の五人も）はよくも（光の校長サンはこんな所をみつけたもんだ）と思つて感心した。

その内に、隠し皆、空虚はせる所な仰に我等は海の家の所在を明らかにした。富野氏の見付け得なかつたはずである。私は三度目だけにたいした感概は湧かない。

いや、しかし前よりは美しくなつたらしい事は察せられた。

到着時に我等唯然とした事一つ。それは、我等蹴球部の猛者とは縁もないスラスバンドの奴が乗つていた事である。奴等は泳ぎに行つていた。しかし、もう夕方帰るんだと聞いて一安心。テヨット遊んですぐ泳ぎだ、といふと云へイがあ

り、おら、謹しんで水につかりにいるふら、とする。

いよいよ飯の用意。水につかっている間に、吉川と武ちゃんが頑丈に行つた。飯炊きは、台所のトンカツにキヤベリ、シヤガイモの鹽エデである。予想よりはうまかった。旨が星を見ていたら、閉せられた。皆が星を見ていたら、閉せられた。そして松田さんと佐藤さん「月影のナホリ」を歌い始めました。やっぱし人間は環境に支配されますね。この夜の特別参加は、

市村、佐藤、松田、木下、

二日目、今日は、市村さん、

佐藤さん、松田さん、木下さん

が昨日から泊まつてている。日中余り変化無し、その夜の事。映像に變つて、今夜は、高工と高IIとのボクシングの試合をしました。最初、守ちやんとトンプソンへ守ちやんと林さんは登場

なんも手のつけようがない。七時頃になると、屋外へ出て、サッカーのナイターに興する。高工強く高IIに勝利をおさめました。その後あつたので海に入つた。皆が星を見ていたら、閉せられた。そして松田さんと佐藤さん「月影のナホリ」を歌い始めました。やっぱし人間は環境に支配されますね。この夜の特別参加は、

打に、トンアエーは逃げまわってばかり。結局文句無しの判定勝を守ちゃんがおさめました。次はクエンと武ちゃん、両者互通で終り、次は川島と市村さん。

川島の強打されつ、市村さんの顔面紅潮々遂に市村さんは判定で敗るも残つた私と、武ちゃんが、富工と高工の名前にかけて試合をした結果、私のストレートがさわったのを、バックシテツつてシリモチをついてタウン。高工の勝利！この日は他に吉川と林さんがやつてこれも互角でした。

三日目、飯作りは板につく。飯炊きは川島と武ちゃんがやつた。もう少しあつたが、文句の云える筋合じやない。昼間ゴンチャンと唯野さん特別参加夜、今日は最後の晩だと思つて

中でも緊張なのが緊張を紹介しよう。  
（ギヤンクになつて奥暗の中を平  
やすりで、誰かをブンナタロウと  
してさがしていた時の事である。  
全然関係のない御にがそのギヤン  
クにマットをかぶせ、ございねい  
にマットをき間からギヤンクを  
ボカボカとなぐつたところである。  
可哀想なのはギヤンク、オレは

ふだねこれは。

（マジンクださうになんこ云う歌に  
かくして樂しい毎の家での生  
活も終りをつけ、駅部屋を最高  
にきれいにして、写真をとつて  
から着服を去つた。  
諸般に幸あれ！

富工バンザイ！

といった奴がいたんだ。

ヤンクである。最初の内は頗る

（私の経験。私がタンディイにな  
に進む。時がたつに従つて、首  
つた時、電灯をりして、首がア  
バレだしたら、川島の声が「オ

イ、ナラレたら、イテエーで  
いえよ！」いや解かに首、自分  
もなぐりたいが助、やらせても  
イテエーといわぬい。誰かギヤ  
ンクだが、バラでも解るだらう。  
（三、ギヤンクが、電灯のスイッ  
チにさわつて、誰かがイタイと  
いったら、つけようとしている  
所のたんこいをなぐつた。バ

八月十七日火曜日に

佐達高二の十期生一回

人を太田邸に集まり、

葉山の海に遊びを致

しましたことは、思い

出の多い高校生活の一

頁を飾るにふさわしい

ものでありましたので

この模様を皆様にお伝

し、又少しでも楽しん

で頂けたらこの上ない

幸福と存じます。

集合は九時（朝の）逗子駅とい

林君は太田君の話によれば、母

海岸へピーチパラソールをたて、

うござりましたが、大石・桂

國・大島より御母堂が御帰還の政、タオル、弁当をその下に置き、

野、矢島の各島は先頭を切って逗

逗より来るとの由、清水、新井、すぐさま沖の小島へと行動を開始

子駅へ入場。次いで中前君、太田

両君の現はれぬまま、一路太田邸

君と見はれ、次の電車で、前村、

へ向つた次第に御座居いました。

町田、鎌形、自転車で富野君が、

こころが、太田邸着後へ我々の轍

サツソウと現われ、横須賀の人達

さに歸したことに、横須賀にさ

は一向に姿を見せませんでした。

さやかな庵をめぐる、阿部、木下、

説で、葉山の海は、あざやかに

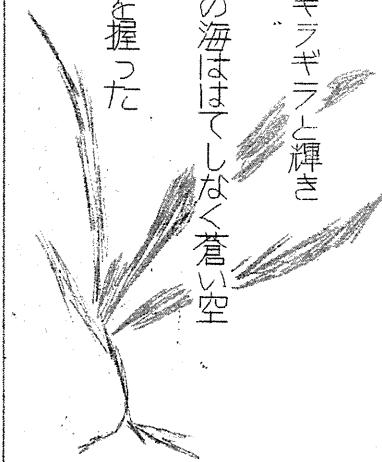
## 葉山一遊ぶ

（太田邸にて）

真夏の太陽はギラギラと輝き

エメラルド色の海ではなく蒼い空

と水平線で手を握つた



佐藤三君の上に、仙台  
よりはうばる御帰宅中の左々木ヨシロー樹下  
の御乗宅のことをあります。すぐに、カル  
ビスとビスクケット、クラ  
ッキーの御もこなしを進しんで受けた後、  
航氣も広く煙々と着脱  
え、ざわりをはいて、  
弁当を持っこ海へ出  
かけまして御座居ます。

晴れたり、真夏の太陽がギラギラと輝き、エメラルドイロの青い空と、さながらイタリーナのカトリ島を思はせるものがありました。大石君は、彼の命の綱、生活の光明ともいうべき、水中メカネ、シュー、ケルを帆舟はなべず持ちつけ、ひたすら海廻を遠て泳ぎ続けました。太田君談によるラムネ飛び込み法に興ずるやら、向うの島まで泳ぐやう、さし登る日の酉と共に皆の樂運もつのつて行きました。

登に成り、日も、皆の樂しさも絶頂に達した所で、一列に成り、岸へ帰つて食事をとりました。午後からは砂浜でビーチバーラーを持つて森戸海岸へ。フロートで真夏の決闘をしばらく続いたが、何者かに頭を押され、もがいてばかりいたが、中前君は、さあ、おまえが水甲斐に近づいた。どうせ死んでしまうんだから、死ぬより一生先に生きよう。でも、一時間後、死んでしまった。でも、太田君だけはここまで来ました。中前君は、彼等が続々と引き上げ、相談相手をし、ウクレレをかき鳴らし、飛び出しが、イブ在もご透ぶ砂浜を後に、人のいない先の小島に舞いました。町田君は木下救援の元に飛び込みの練習にはげみました。太田君の何とかの顔で高梨牛乳専属ボートで遊びたわむれました。唯野君は百米の仲合で泥濘、矢島君は水の浸入により、我を忘れて立り上り水に飛び込んだのです。夕方、太田町で風呂に入り、グラ

ても、もがいても浮き上がり、一スルレットをして、中前、唯野、町田の三君は宿より一足先に帰りました。宿も一時間後、めいめいの朝に帰り、太田君だけはこまつて行きました。中前君の宿の避暑地の出来事でした。



集

編後記

四

どうも発行が遅れこすみません。

平に平に、お許しの程、お頼い申  
し上げる次第です。

私達編集員が、こういう異常に勤

畢しているので、いい気持になつて、今後気をつけろ。等と云はる奴は、バカです。

何故なら、この責任は一重に、君達にあるからなのです。私達編集員は、米光蹴球部生活の最後の活動の後の感想を述べるにあたつて、少々、ではなく、本当にづけづけと云わせて頂きます。

私達は、十期生のいる最後の、ダッシュ、を素晴らしい物にすべく、

半年も前から計画を練り、手稿をたこ、努力したのです。その努力は非の打ち所が何ひとつないまです。

「表紙は写真にしてみた。

「八十頁位にはしたいなあ」

「先生達の文も載せよう」

「もっと節度の作文や詩や、文学的なものをせよ」と。

そして原稿を集めにかかりました。

品は投稿されません。そこで頭を

集め、もう烈に熱を入れて説得しました。

「若者よ」にも書きまし

た。しかし部員諸君は非協力的、

いやむしろ嘲笑的でさえあります。

夏休みの間、待ちつづけました。

の原稿のみであったのです。私達はあせりました。そして、手紙によつて原稿を集めました。そこで、私達は還を出し、  
軒並みに書いて戻れるよう頼んでみました。するとどうでしょ  
う。皆は笑つて引き受けくれたでしょうか。いや、どんなも  
なじ。皆一度は悲い顔をし、断  
もたのむと、世にも卑屈な断り方をするのでした。

がしました。ある人は、しかも高  
三のある人は、引き受けこれから、  
提出するまで、何度も催促されたり  
分りません。今までに今までの  
歴代の編集者は、原稿提出を下手で  
に出で寝んでいました。しかし、  
それをはじめだといふことが分り  
ました。私個人へ中前」としまし  
ては、気が荒いもんですから、つ  
い頬の火をはってやりたいような  
感じになりました。下級生諸君  
も私などがたのんでも、難をあし  
らうよろな方だけつこういました。  
彼等は上級生をからかうことに生  
きがいを感じてしるようです。わ  
う少し考えて下さい。

『ダッシュは  
編集員が作る  
のではない。  
自分で作るのだ。  
今たか!!』

昭和三五年九月二十五日印刷  
昭和三五年十月二日発行  
発行所  
徳光学園蹴球部  
編集員 中前峻  
美術担当 唯野英輝  
大石一之

奥田さんには遅いが中止しようと  
はないか。いるのなら、西田助力  
して、皆で作り上げて行こうでは  
ないか。次編集者、そして今のか  
わいい中一が編集者となることを  
ために、いやしつまでもこれから  
いう意図を心にこめて下さい。

『DASH』第八号

ひじくめらやくちやに非難懲罰  
なのです。はさな活動ばかりよ  
り、みんな活動もして下さい。  
お頼いします。是非。

い。高枝並びに、中学生諸君！  
君達は、タッショ、がいらない  
のか！ いらないのなら体調は、

皆さん、蹴球部は積極的だとほ  
められて、いい気持になつていな  
いぞ下さい。君達は、内面的には、